

# **LUXKIT**

## **ASSEMBLY MANUAL**

**STEREOPHONIC POWER AMPLIFIER**  
**MODEL KMQ60**



本機は、3極出力管50CA10とOY15型出力トランスによって構成される、ステレオ・パワーアンプ・キットです。このキットは、すでに評価の定着したラックスのパワーアンプMQ60型に準じた回路とパーツで構成されていますので、パーツの取付け、配線、および、調整を行なうことによって、同等の性能が得られます。

回路は、ムラード型を基本に、この回路をフルに生かすため、初段の電圧増幅段に内部抵抗の低い6267を3極管接続で使い、高域の特性を改善しています。さらに、位相反転段にHigh $\mu$ の6AQ8を使って、上下のアンバランスを押えています。このほか、細部に涉って工夫を凝らし、3極管の魅力を十分引き出しています。本機が完成すれば、適当なコントロール・アンプと組み合わせることによって、3極出力管の密度の高い、しなやかな音質が楽しめます。“見て楽しむ”向きにも、その重厚でコクのある意匠は、十分満足していただけるでしょう。

## § 1 組立てる前に

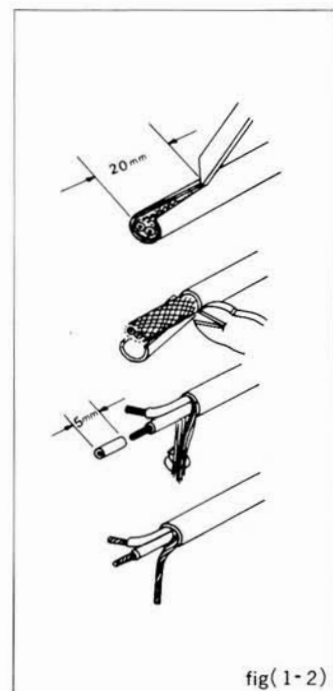
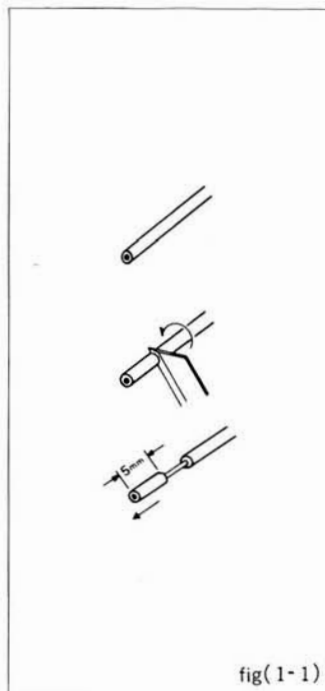
本機はラックスの現役完成品アンプMQ60を自分の手で組立てたいという方の為にキットとして製品化されたものです。しかし、組立て易さを優先する為に性能を犠牲にするといったことは一切していませんから、この説明書通りに確実に作業を進めれば、MQ60と同等の性能を得ることができます。なお、本機はプリント基板化されていませんので、ラグ板への配線、線材の引きまわしなどに特に注意して、実体配線図通りに行ってください。

### 単線、およびシールド線の処理

単線の末端は、ナイフ、ニッパー等で、むきしろ5mm程度に処理します。

fig.(1-1)

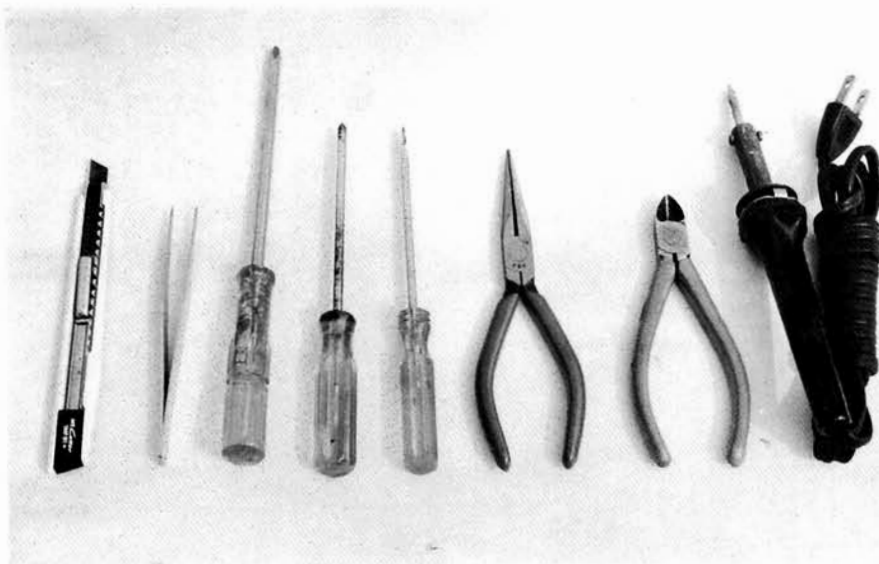
二芯シールド線は、むきしろを2cmとし、シールド用外被線をほぐして1本によじっておきます。2本の芯線はそれぞれむきしろを5mmとし、先端をハンダメッキしておきます。fig.(1-2)



### 本機を組立てるのに必要な工具

写真に掲げてある工具だけで、本機を組立てることができます。左から、カッター、ピンセット、十字ドライバー大小、ドライバー、ラジオペンチ、ニッパー、ハンダごてです。この他にナット回し、ワイヤーストリッパー等があると便利です。

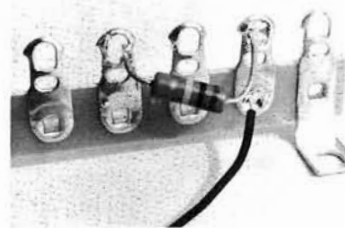
なお、調整段階ではテスター、もしくはバルボルが必要です。



## ハンダ付けに関する注意

ハンダ付けは、もっとも大切な作業の一つです。キットのトラブルの多くは、不確実なハンダ付けが原因です。ハンダ付けをする前に、端子やリード線の表面の油分やゴミを取り除き、ハンダごての先も、常にきれいにしておくことが大切です。うまくハンダ付けされた接合部は、滑らかで、光沢があります。

右の写真は、上がハンダ付けの良い例、下がハンダ付けの不完全なときの例です。



## ハンダごての容量

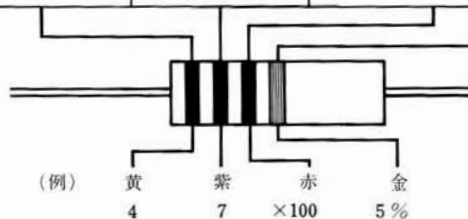
細かい所にハンダ付けするので、先の細い30Wから50W程度のものが適当です。

## ハンダについて

本製品には、良質のハンダを付属させていますので、ペーストはお使いにならないでください。経年変化で腐蝕することがあります。

## 抵抗値の読み方

色	帯	第一数	第二数	乗数	誤差範囲
黒		0	0	× 1	-
茶		1	1	× 10	-
赤		2	2	× 100	-
橙		3	3	× 1,000	-
黄		4	4	× 10,000	-
緑		5	5	× 100,000	-
青		6	6	× 1,000,000	-
紫		7	7	× 10,000,000	-
灰		8	8	-	-
白		9	9	-	-
金		-	-	× 0.1	5 %
銀		-	-	× 0.01	10 %
無地		-	-	-	20 %



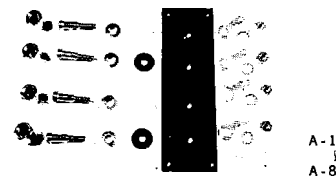
4700Ω 5%  
(即ち 4.7KΩ 5%)

## § 2 パーツリスト

この表は袋別に分類されています。AからGまでの部材はナイロン袋に、Oの部材は単独で納められています。

各袋の部材は一緒に出してしまうと、後で探すのに大変ですから、別々に取出すようにしてください。

LIST-A		
A-1	フッティング	4



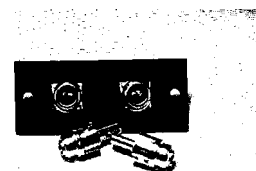
A-1  
A-8

LIST-B			
番号	品名	摘要	数量
B-1	パワースイッチ		1
B-2	ポリユーム	250KΩ (A)	2
B-3	ロータリースイッチ		1
B-4	ヒューズホルダ		1
B-5	ネオンパイロット		1
B-6	入力端子板	2 P	1

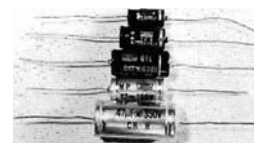


B-4  
B-5

LIST-C			
番号	品名	摘要	数量
C-1	抵抗	33KΩ ¼W (橙-橙-橙)	2
C-2	抵抗	100Ω ½W (茶-黒-茶)	2
C-3	抵抗	1KΩ ½W (茶-黒-赤)	2
C-4	抵抗	2700Ω ½W (赤-紫-赤)	1
C-5	抵抗	3300Ω ½W (橙-橙-赤)	2
C-6	抵抗	33KΩ ½W (橙-橙-橙)	8
C-7	抵抗	100KΩ ½W (茶-黒-黄)	7
C-8	抵抗	1MΩ ½W (茶-黒-緑)	2
C-9	抵抗	22Ω 1W (赤-赤-黒)	2
C-10	抵抗	17KΩ 1W (茶-紫-橙)	2
C-11	抵抗	47KΩ 1W (黄-紫-橙)	1
C-12	抵抗	2200Ω 2W (赤-赤-赤)	1
C-13	電解チューブラコンデンサ	10μF 100WV	2
C-14	電解チューブラコンデンサ	100μF 6.3WVまたは10WV	2
C-15	オイルチューブラコンデンサ	0.047μF 630WV	4
C-16	M.P.コンデンサ	0.47μF 350WV	2
C-17	M.P.コンデンサ	0.22μF 250WVまたは350WV	2
C-18	セラミックコンデンサ	560pF	2
C-19	セラミックコンデンサ	20pF	2
C-20	セラミックコンデンサ	5pF	2
C-21	シリコンダイオード	RA-1B	4
C-22	シリコンダイオード	S1R60	1
C-23	半固定抵抗	5KΩ (3端子型)	2
C-24	半固定抵抗	10KΩ (2端子型)	2
C-25	ポリエステルコンデンサ	0.022μF 125Vまたは250V	2



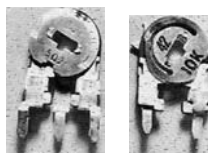
B-6



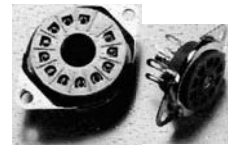
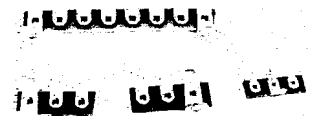
C-13  
C-17



C-18  
C-20

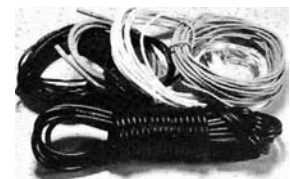


LIST - E			
番号	品名	摘要	数量
E-1	ビス	3φ - 8mm	17
E-2	ビス	3φ - 6mm ブロンズ	14
E-3	ビス	3φ - 12mm	4
E-4	皿ビス	3φ - 6mm	4
E-5	ビス	2.3φ - 6mm	4
E-6	ナット	3φ	28
E-7	ナット	8φ ポリウム用	2
E-8	ナット	9φ ロータリスイッチ用	1
E-9	ナット	2.3φ	4
E-10	内歯ワッシャ	3φ	28
E-11	内歯ワッシャ	8φ ポリウム用	2
E-12	平ワッシャ	8φ ポリウム用	2
E-13	平ワッシャ	9φ ロータリスイッチ用	2
E-14	スプリングワッシャ	2.3φ	4



D-7

LIST - F			
番号	品名	摘要	数量
F-1	単線	白色 300cm	1
F-2	単線	黒色 210cm	1
F-3	単線	赤色 165cm	1
F-4	単線	橙色 30cm	1
F-5	単線	緑色 20cm	1
F-6	単線	黄色 80cm	1
F-7	単線	茶色 70cm	1
F-8	単線	紫色 55cm	1
F-9	単線	青色 110cm	1
F-10	シールド線	2芯 50cm	1
F-11	スズ引線	60cm	1
F-12	ガラスチューブ	70cm	1
F-13	ビニール線	バインド用 300cm	1
F-14	A C コード		1
F-15	ヒューズ	5 A	2
F-16	ハンダ	1m巻	3



LIST-G			
番号	品名	摘要	数量
G-1	ゴム足		4
G-2	ゴム足カバー		4
G-3	コードストッパー		1
G-4	セッティングノブ		3

LIST-O			
番号	品名	摘要	数量
O-1	シャーシ	アルミ製	1
O-2	サブシャーシ		1
O-3	底板		1
O-4	パワートランス	S-1791	1
O-5	チョークコイル	C-1744	1
O-6	アウトプットトランス	OY15-5	2
O-7	真空管	50CA10	4
O-8	真空管	6A Q 8	2
O-9	真空管	6 2 6 7	2
O-10	ブロックコンデンサ	47 $\mu$ F+47 $\mu$ F 500WV	1
O-11	ブロックコンデンサ	47 $\mu$ F+47 $\mu$ F 160WV	1
O-12	ブロックコンデンサ	33 $\mu$ F+33 $\mu$ F 500WV	1

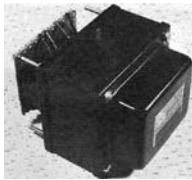
G-3



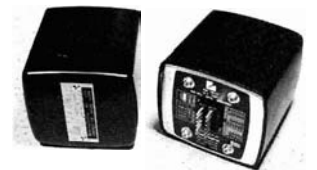
G-4



O-2



O-5



## § 3 部材の取付け

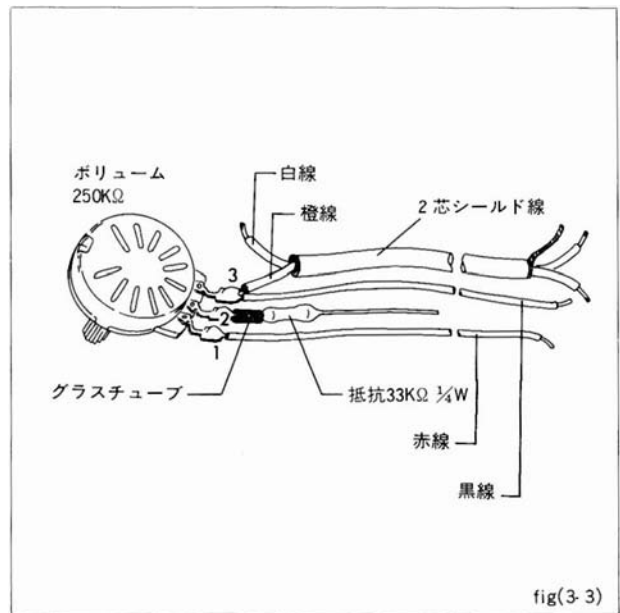
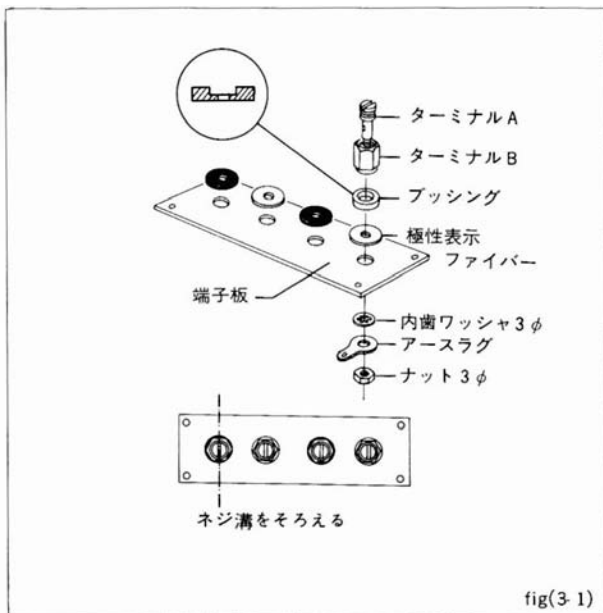
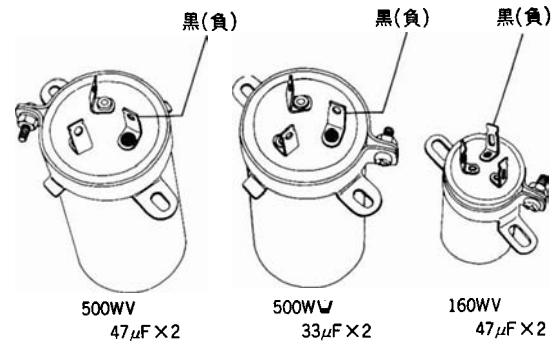
この章では、シャーシとサブシャーシに部材を取付けてゆきます。ここでの作業を怠ると後の作業に支障を来しますので、一つ一つの工程を確実に行ってください。

なお、この組立説明書には、工程順に□印と番号を付していますので、順番に工程が終れば、□印に鉛筆でチェックしてゆけば、思わぬ配線ミスを防ぐことができます。

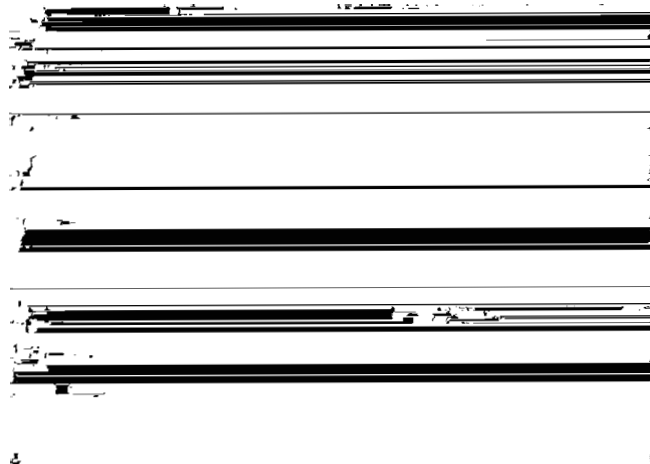
### 予備作業

- ① 出力端子板(パーツ袋A)を組立てます。まずターミナルBにターミナルAをいっぱいねじ込み、ブッシング、極性表示ファイバー、内歯ワッシャ、アースラグ、ナットによって止めます。このとき、ネジ溝とアースラグの方向を揃え、アースラグは端子板から45度程度曲げておきます。又ブッシングの上下に注意して下さい。 fig.(3-1)
- ② 電解ブロックコンデンサ3個を用意し、取付け金具の上下に注意して、黒印(負)と取付金具の位置関係を確認してからネジ止めます。 fig.(3-2)
- ③ 2芯シールド線31cmを用意し、両端のむきしろを2cmとして、一方のシールド用外被線をチューブからはみ出さないように切取っておきます。 fig.(3-3)
- ④ 前工程③で外被線を切取った側の橙色の芯線と、別に用意した黒色の単線9cmを、250KΩポリウム(パーツ袋B)の端子3にハンダ付けします。白色の芯線は遊ばせておいてください。
- ⑤ 0.5cmのガラスチューブ(パーツ袋F)を介して、 $\frac{1}{4}$ W型抵抗33KΩ(橙橙橙)を、250KΩポリウムの端子2にハンダ付けします。 fig.(3-3)
- ⑥ 赤色の単線11cmを、250KΩポリウムの端子1にハンダ付けします。 fig.(3-3)

- ⑦ 2芯シールド線14cm、 $\frac{1}{4}$ W型抵抗33KΩ(橙橙橙)、ガラスチューブ0.5cm、黒色の単線7.5cm、赤色の単線10cmを用意し、工程③~⑥と同じ要領で、もう一つの250KΩポリウムの各端子にハンダ付けします。 fig.(3-3)







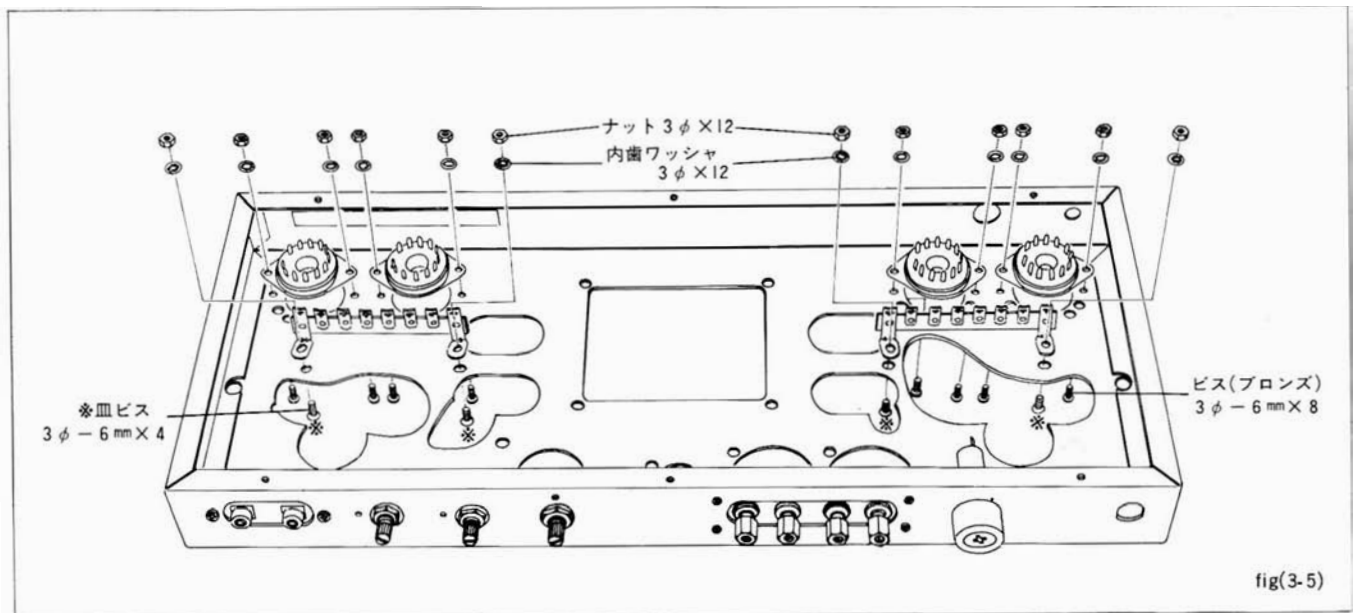
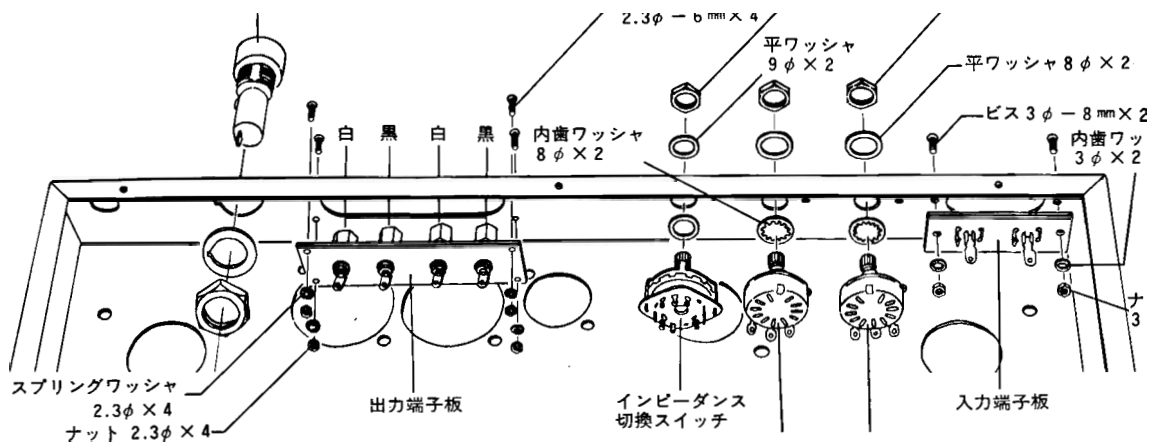
9φと平ワッシャでサブシャーシに取付けます。

- ④ 予備作業で組立てた出力端子板を上下に注意して、ビス(2.3φ-6mm)とスプリングワッシャ、ナットでサブシャーシに取付けます。
- ⑤ ヒューズホルダ(パーツ袋B)をストッパーの位置に注意して付属のナットとワッシャでサブシャーシに取付けます。

- ⑥ 2 L6 Pラグ板2個(パーツ袋D)を向きに注意して、皿ビス(3φ-6mm)、内歯ワッシャ、ナットでサブシャーシに取付けます。これを忘れますと後からは取付けられませんので注意してください。

fig.(3-5)

- ⑦ 12PINチューブソケット4個(パーツ袋D)をピンの位置に注意して、サブシャーシ内側から、ブロンズビス(3φ-6mm)、内歯ワッシャ、ナットで取付けます、fig.(3-5) fig.(3-12)



fig(3-5)

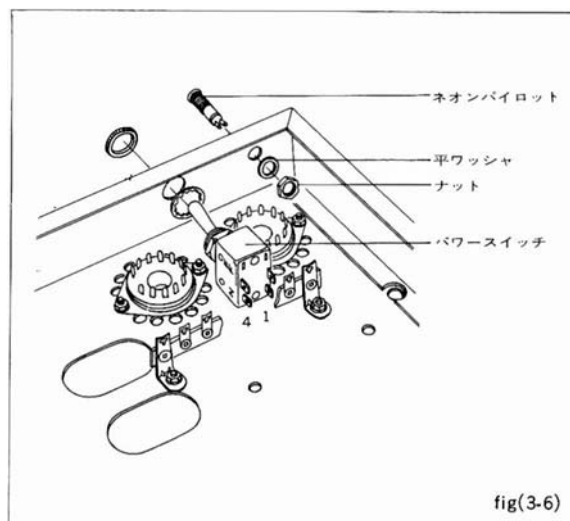
□⑧ ネオンパイロット(パーツ袋B)を付属のナットとワッシャでサブシャーシに取付けます。 fig.(3-6)

□⑨ パワースイッチ(パーツ袋B)を power と表示してある側に倒せばONになるように、付属のナットと内歯ワッシャで、サブシャーシに取付けます。 fig.(3-6)

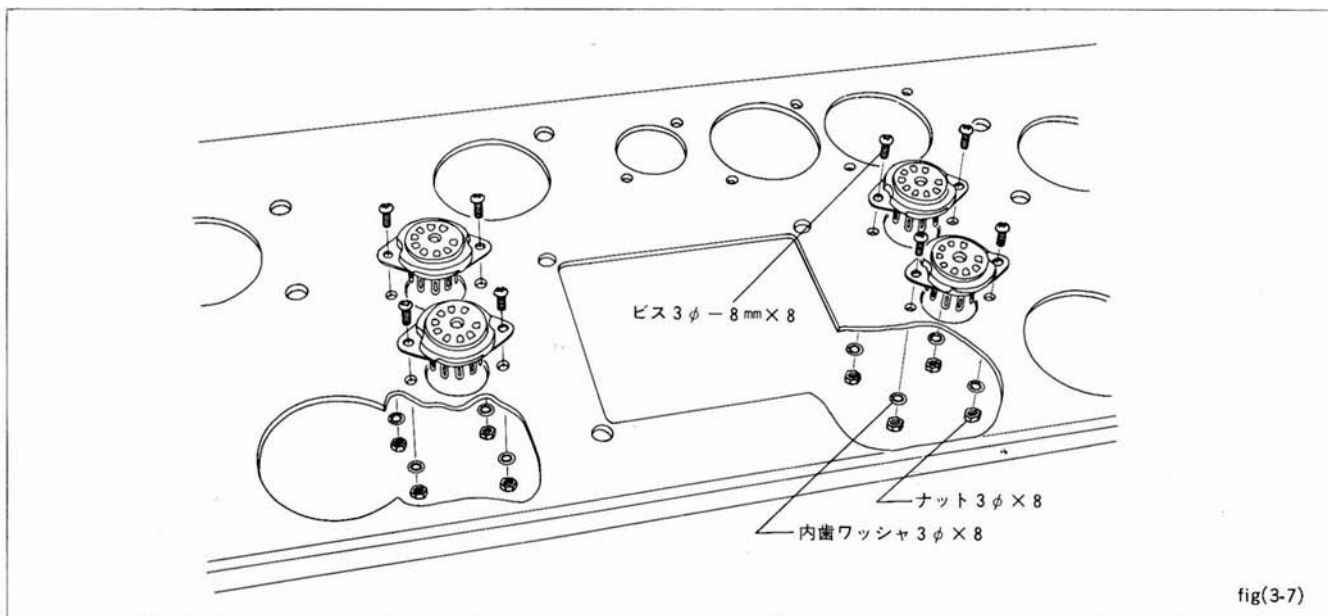
□⑩ シャーシ(アルミ製)に、9PINチューブソケット4個(パーツ袋D)をシャーシの上から、ビス(3φ-8mm)、内歯ワッシャ、ナットで止めます。 fig.(3-7) fig.(3-11)

これでシャーシ、サブシャーシのそれぞれへの部材取付けは一応、完了しました。もう一度、サブシャーシに2L6Pラグ板2個が付いているかを確認してください。

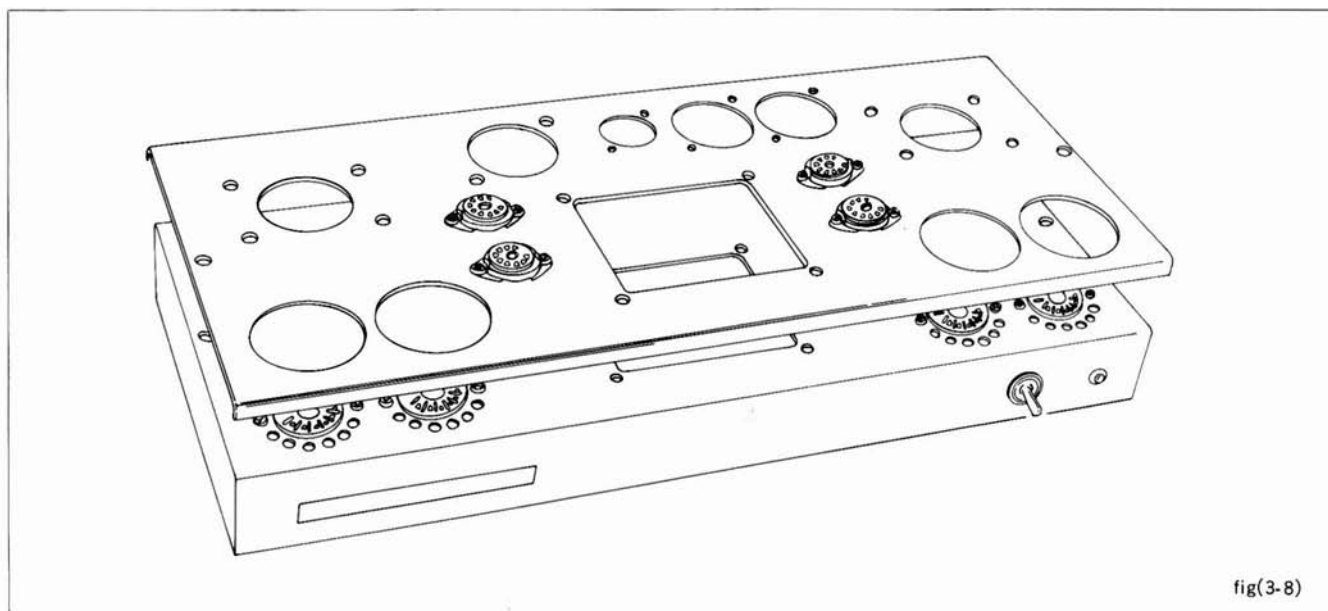
□⑪ シャーシをサブシャーシの上に、穴がうまく合うように注意して、はめ込んでください。 fig.(3-8)



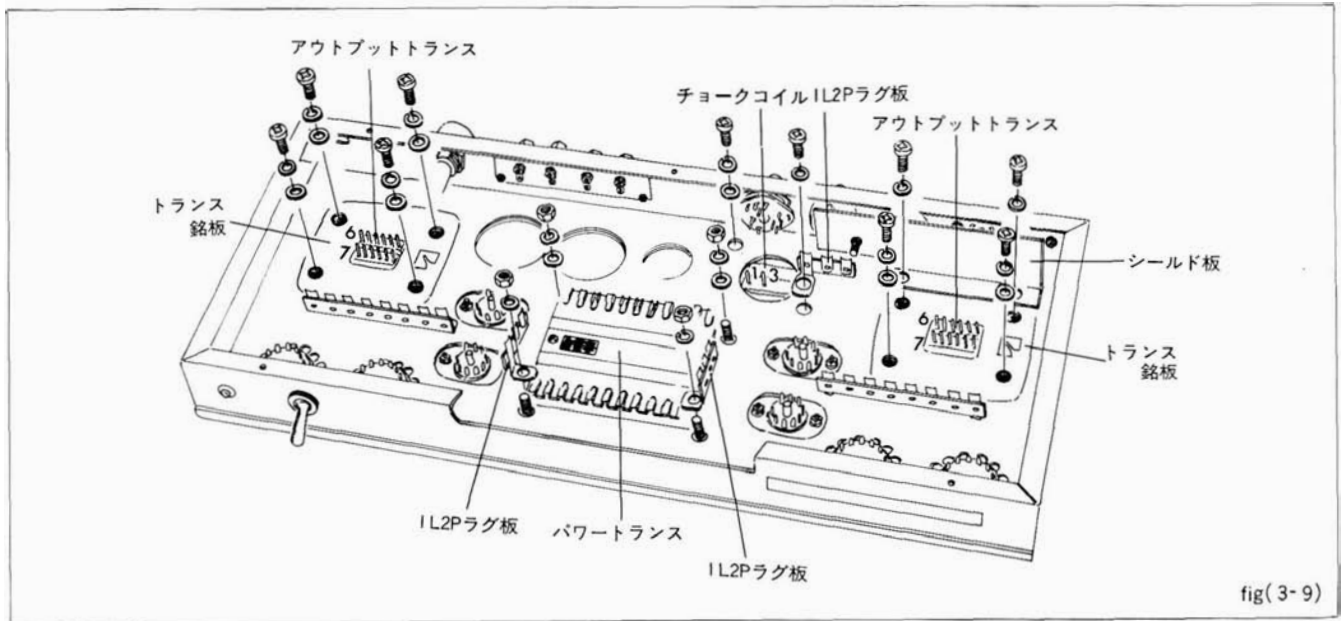
fig(3-6)



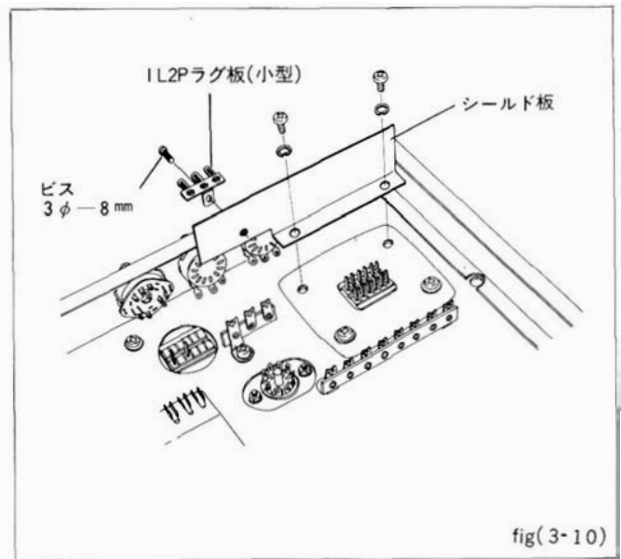
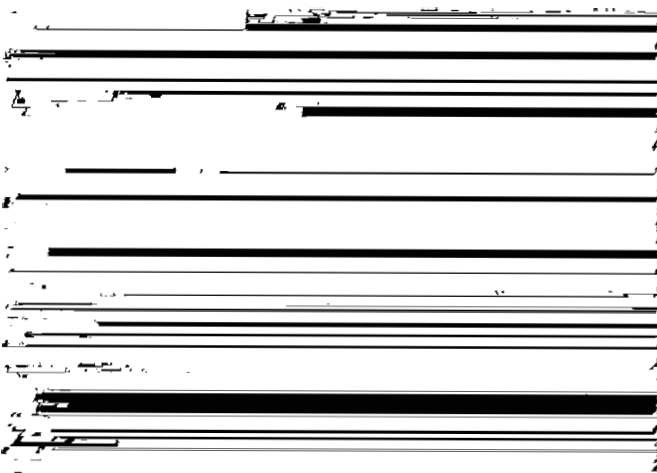
fig(3-7)



fig(3-8)



fig(3-9)



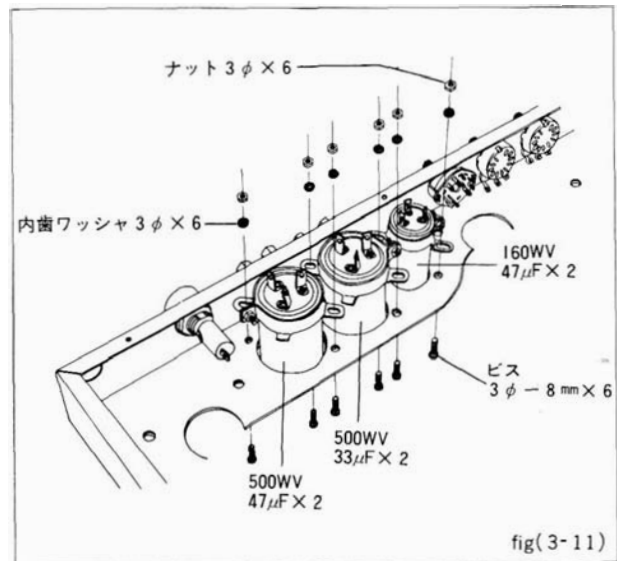
fig(3-10)

止めます。このとき、一方のビスには、平ワッシャを使用しないで、代りにIL2P(左)ラグ板(パーツ袋D)と一緒に取付けます。図をよく見て、チョークコイルの端子の位置および、ラグ板の向きを確認してください。 fig.(3-9)

□13 1 L2 P小型ラグ板(パーツ袋D)をシールド板(パーツ袋D)にビス(3φ-8mm)で取付けます。 fig.(3-10)

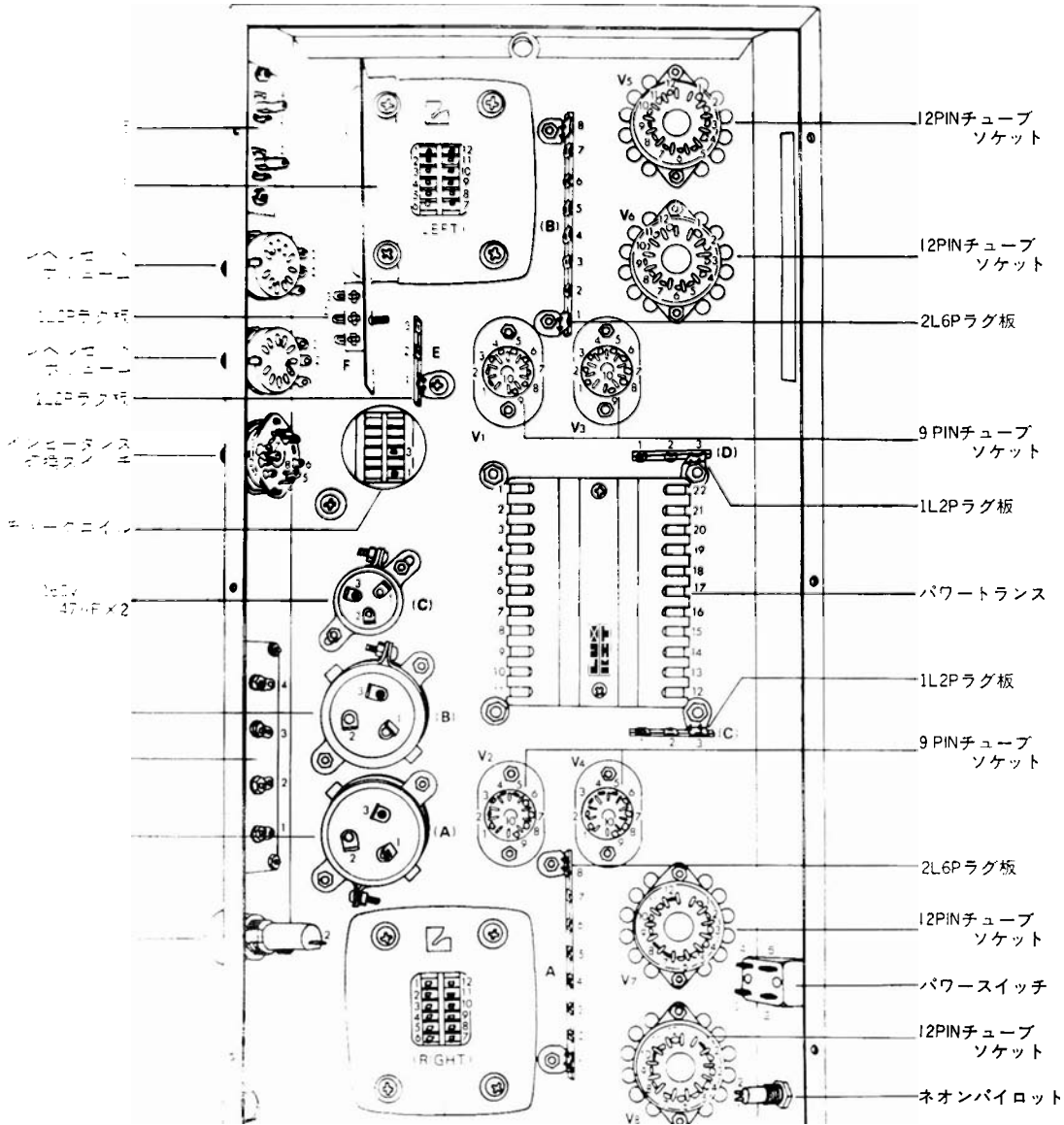
□14 LEFT側(シャーシ裏から見て右)に、アウトブットトランスを、端子番号の位置に注意して、シャーシを銘板ではさむようにビス、平ワッシャ、スプリングワッシャで止めます。このとき、ボリューム側の2つのビスには平ワッシャを使用しないで、代りにIL2P小型ラグ板のついたシールド板と一緒に取付けます。 fig.(3-9), fig.(3-10)

□15 RIGHT側に、アウトブットトランスを、端子番号に注意してビス、平ワッシャ、スプリングワッシャで止めます。



fig(3-11)

アウトットランス



アウトットランス

fig(3-12)

## § 4 配線工程

### 配線に移る前の注意

さて、いよいよ配線工程に入るわけですが、“組立てる前に”で述べた諸注意をもう一度確認しておいてください。各工程は文章と実体配線図を照し合わせて作業内容をよく理解した上で進めて行ってください。

#### 線材の配線

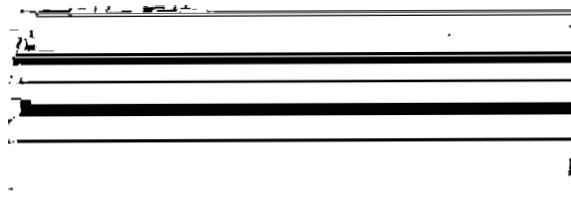
線材のラグ板への配線は、すべてラグ板の一番下の穴を使い、ハンダ付けは穴を埋めるようにしてください。

#### 写真1

ただし、工程中2L6Pラグ板Aの端子8と2L6Pラグ板Bの端子2には、多くの線材が集中しますので、線材のむき代を下穴に通して抜けないように曲げておき、最後の工程でまとめてハンダ付けします。

アウトプットトランス、チョークコイルの端子への配線はむき代を端子にまきつけてハンダ付けします。写真2

線材の引き回しは、実体配線図の通りにしてください。指定外の引き回しをしますと、電気的に悪影響を引き起こすことがあります。



抵抗、コンデンサ、ダイオードの配線はすべてラグ板の上穴又は中穴を使用します。

#### 写真3

ダイオード、電解コンデンサ等の極性のあるもの（部品に表示されている）は、逆にしないように特に注意してください。

各部材は、端子と端子のほぼ中央に来るように配線し余分のリード線は切り取ります。

線材のむきしろ5mmをとって端子の穴を通してハンダ付けした後、余分なむきしろはニッパー等で切り取ってください。

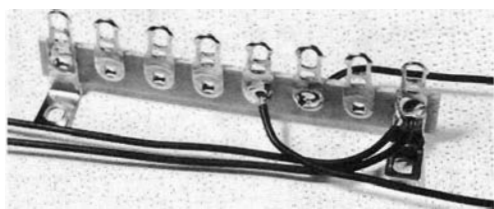


写真1

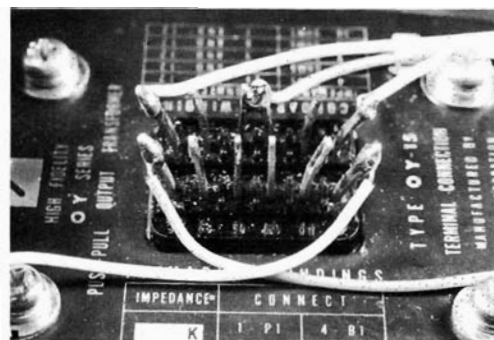
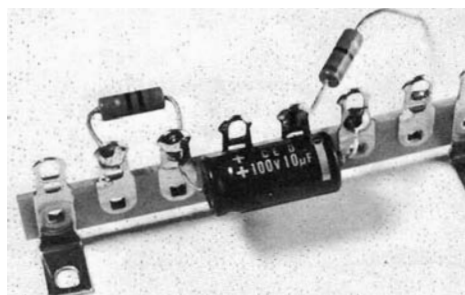


写真2

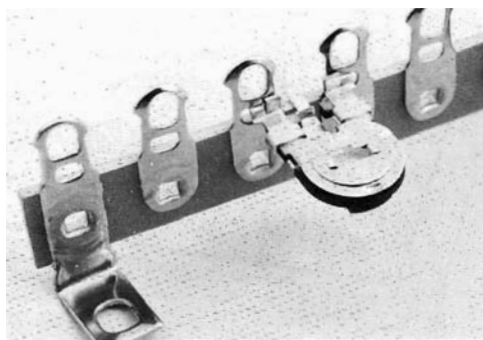
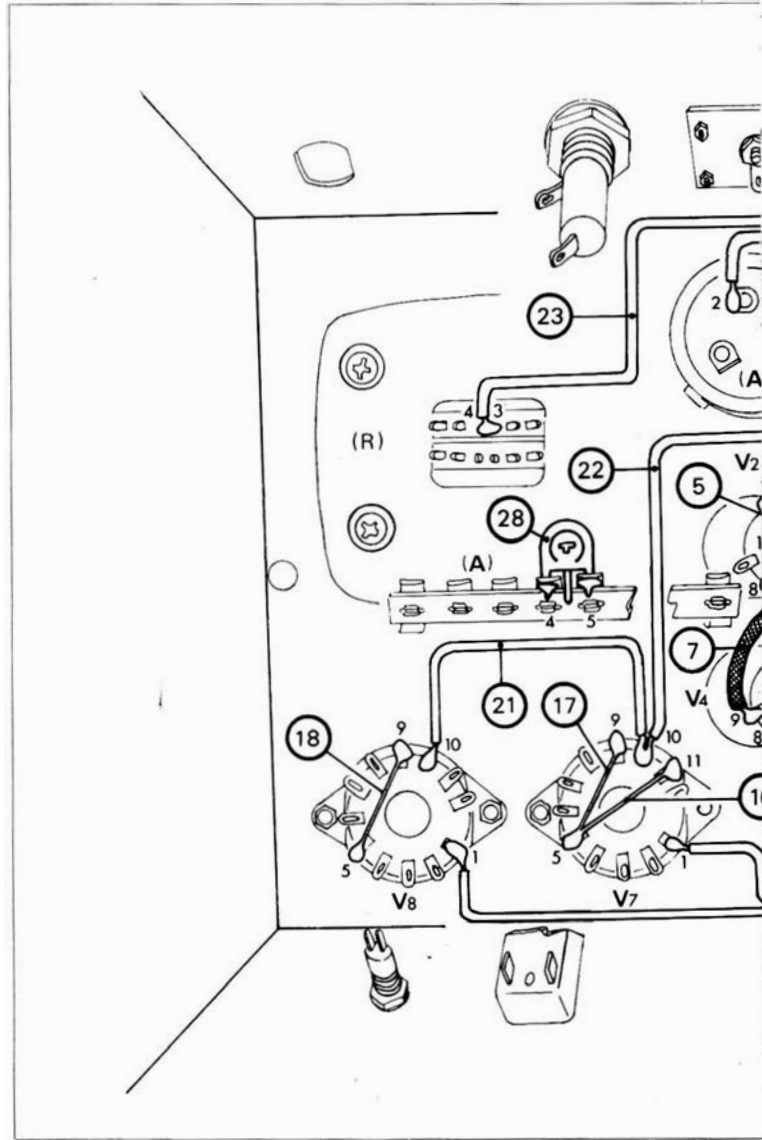


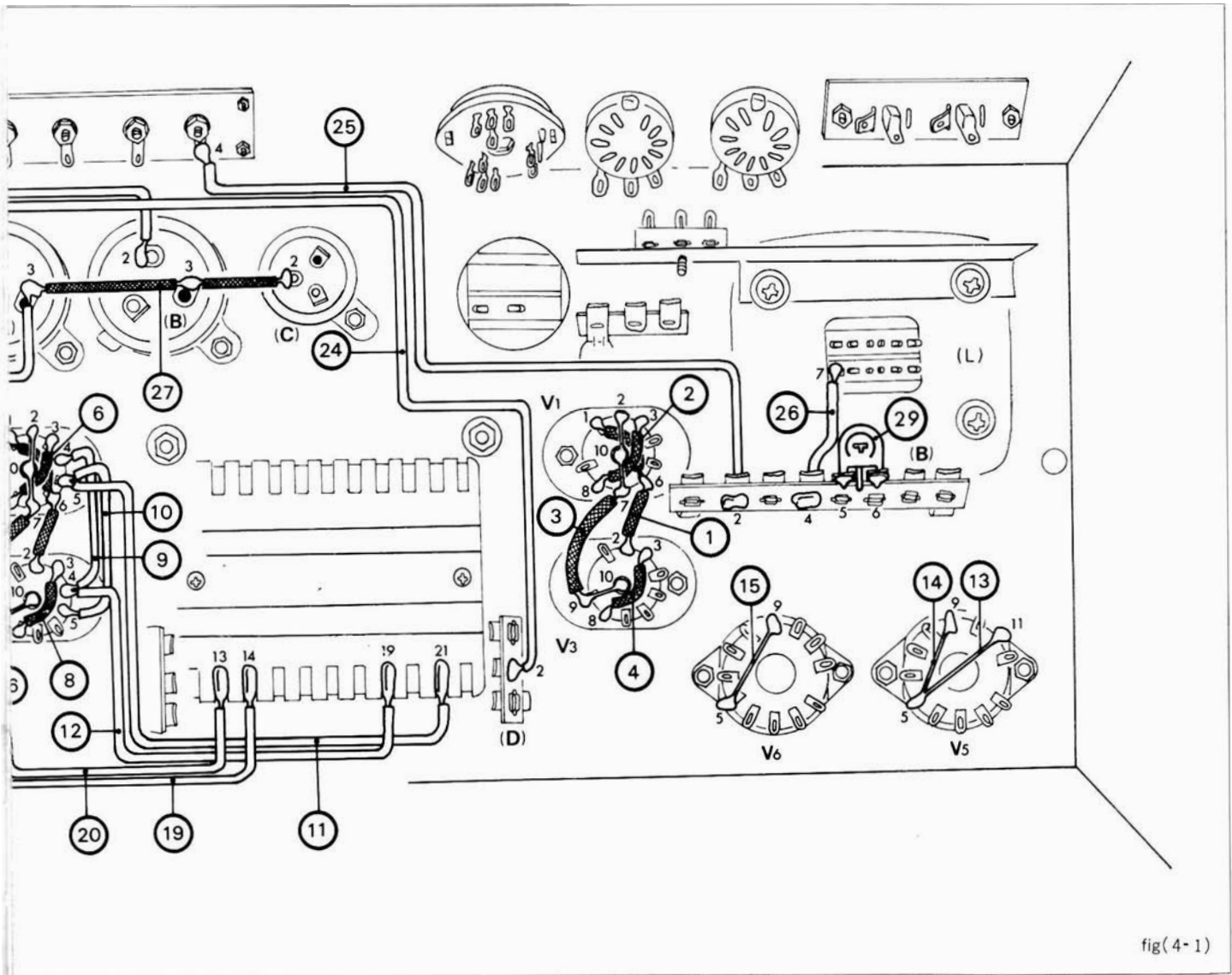
写真4

## 実体配線図(1)

- ① スズ引線 4.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>1</sub>のピン1から2 cmのガラスチューブを通してピン6へ配線し、さらに2 cmのガラスチューブを通して、9 PINチューブソケット V<sub>a</sub>のピン2へ配線し、ハンダ付けします。
- ② スズ引線 2.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>1</sub>のピン3から2 cmのガラスチューブを通してピン8へ配線し、ハンダ付けします。
- ③ スズ引線 7 cmを9 PINチューブソケット V<sub>a</sub>のピン10からピン9に配線し、3.5cmのガラスチューブを通して、9 PINチューブソケット V<sub>1</sub>のピン7を通り、ピン10、ピン2に配線し、ハンダ付けします。
- ④ スズ引線 2.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>a</sub>のピン3から2 cmのガラスチューブを通してピン8へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ スズ引線 4.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン1から2 cmのガラスチューブを通してピン6へ配線し、さらに2 cmのガラスチューブを通して、9 PINチューブソケット V<sub>4</sub>のピン2へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑥ スズ引線 2.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン3から2 cmのガラスチューブを通してピン8へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑦ スズ引線 7 cmを9 PINチューブソケット V<sub>4</sub>のピン10からピン9に配線し、3.5cmのガラスチューブを通して、9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン7を通り、ピン10、ピン2に配線し、ハンダ付けします。
- ⑧ スズ引線 2.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>4</sub>のピン3から2 cmのガラスチューブを通してピン8へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑨ 白色の単線 5.5cmを9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン4からV<sub>4</sub>のピン4へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑩ 白色の単線 5.6cmを9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン5からV<sub>4</sub>のピン5へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑪ 白色の単線22cmを9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン5からパワートランスの端子21へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑫ 白色の単線18cmを9 PINチューブソケット V<sub>4</sub>のピン4からパワートランスの端子19へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑬ スズ引線 2.5cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン5からピン11へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑭ スズ引線 2 cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン5からピン9へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑮ スズ引線 2 cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン5からピン9へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑯ スズ引線 2.5cmを12PINチューブソケット V<sub>7</sub>のピン5からピン11へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑰ スズ引線 2 cmを12PINチューブソケット V<sub>7</sub>のピン5からピン9へ配線し、ハンダ付けします。



- ⑱ スズ引線 2 cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン5からピン9へ配線し、ハンダ付けします。
- ⑲ 白色の単線20 cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン1からパワートランスの端子14に配線し、ハンダ付けします。
- ⑳ 白色の単線14 cmを12PINチューブソケット V<sub>7</sub>のピン1からパワートランスの端子13に配線し、ハンダ付けします。
- ㉑ 黒色の単線10 cmを12PINチューブソケット V<sub>6</sub>のピン10からV<sub>7</sub>のピン10へ配線し、ハンダ付けします。
- ㉒ 黒色の単線15.5 cmを12PINチューブソケット V<sub>7</sub>のピン10からブロックコンデンサAの端子3に配線し、ハンダ付けします。
- ㉓ 赤色の単線18 cmをRIGHT側アウトブットランスの端子3, 4からブロックコンデンサBの端子2に配線し、ハンダ付けします。このとき、アウトブットランスの端子3,



fig(4-1)

□24 赤色の単線29cmをブロックコンデンサAの端子2から、2L6 Pプラグ板Dの端子2の下穴に配線し、ハンダ付けします。

□25 黒色の単線22.5cmを出力端子板の端子4にハンダ付けし一方を2L6 Pプラグ板Bの端子2の下穴に通し、ハンダ付けしないで折曲げておきます。

□26 茶色の単線6.5cmをLEFT側アウトプットトランスの端子7から、2L6 Pプラグ板Bの端子4の下穴に配線し、ハンダ付けします。

□27 スズ引線7cmをブロックコンデンサAの端子3から3.5cmのグラスチューブを通してブロックコンデンサBの端子3に配線し、さらに、2cmのグラスチューブを通してブロックコンデンサCの端子2に配線し、ハンダ付けします。

上にし、両側の端子を2L6 Pプラグ板Aの端子4、5の中穴に差込み、ハンダ付けします。

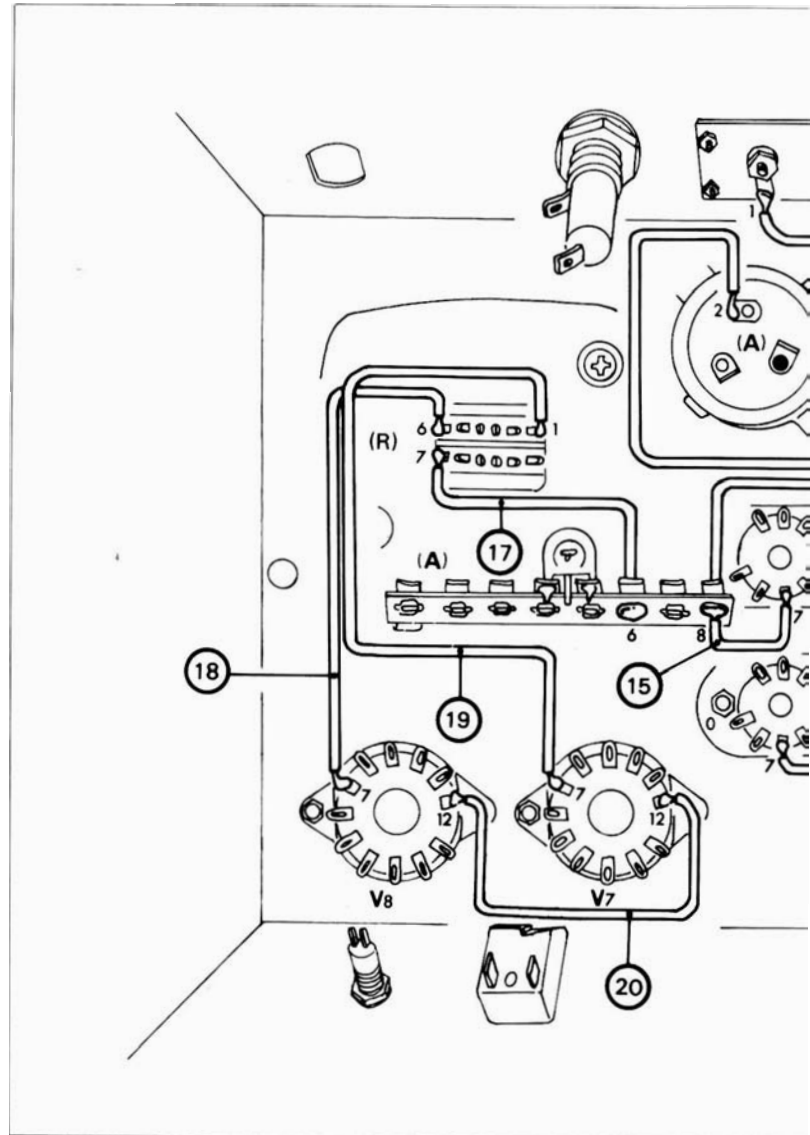
P. 12 写真4

□29 3端子半固定抵抗5KΩを、表示のある面を上にし、両側の端子を2L6 Pプラグ板Bの端子5、6の中穴に差込み、ハンダ付けします。

P. 12 写真4

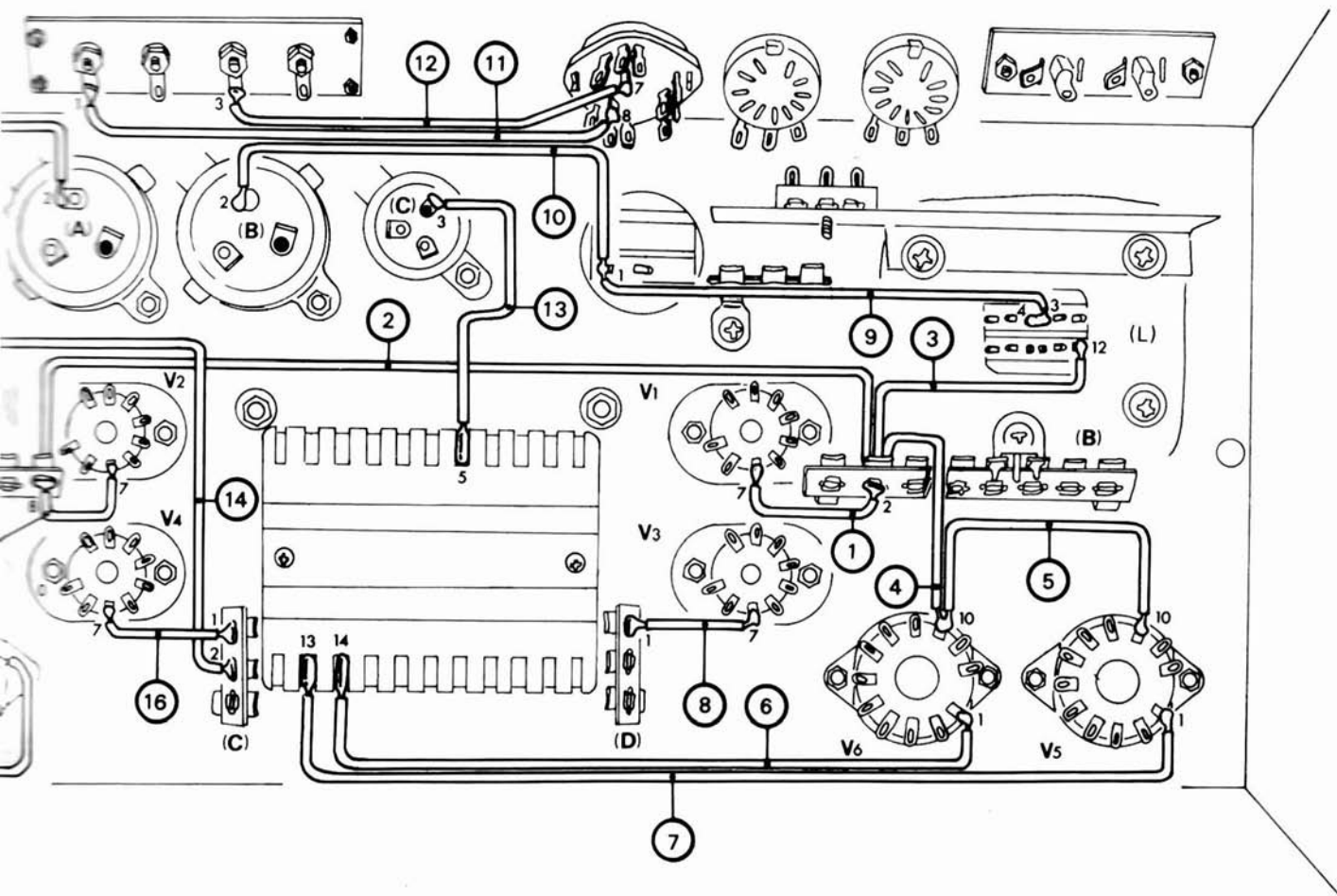
## 実体配線図(2)

- ① 黒色の単線 4.5cmを9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン7にハンダ付けし、一方を2L6プラグ板Bの端子2の下穴に通して、ハンダ付けしないで折曲げておきます。
- ② 黒色の単線31cmを2L6プラグ板Aの端子8の下穴から、  
ないで折曲げておきます。  
黒色の単線10cmをLEFT側アウトプットトランスの端子14から、  
④ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑤ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑥ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑦ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑧ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑨ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑩ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑪ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑫ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑬ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑭ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑮ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑯ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑰ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑱ 黒色の単線17cmを2L6プラグ板Aの端子6の下穴から、  
⑲ 黄色の単線4cmを9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン7から1L2プラグ板Cの端子1の下穴に配線し、ハンダ付けします。
- ⑳ 黄色の単線4cmを9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン7から1L2プラグ板Cの端子1の下穴に配線し、ハンダ付けします。



- ⑰ 茶色の単線12cmをRIGHT側アウトプットトランスの端子7から、2L6プラグ板Aの端子6の下穴に配線し、ハンダ付けします。
- ⑱ 橙色の単線11.5cmをRIGHT側アウトプットトランスの端子6から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン7に配線しハンダ付けします。
- ⑲ 黄色の単線18cmをRIGHT側アウトプットトランスの端子1から、12PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン7に配線し、ハンダ付けします。  
⑳ 白色の単線11.5cmを12PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン12から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン12に配線し、ハンダ付けします。

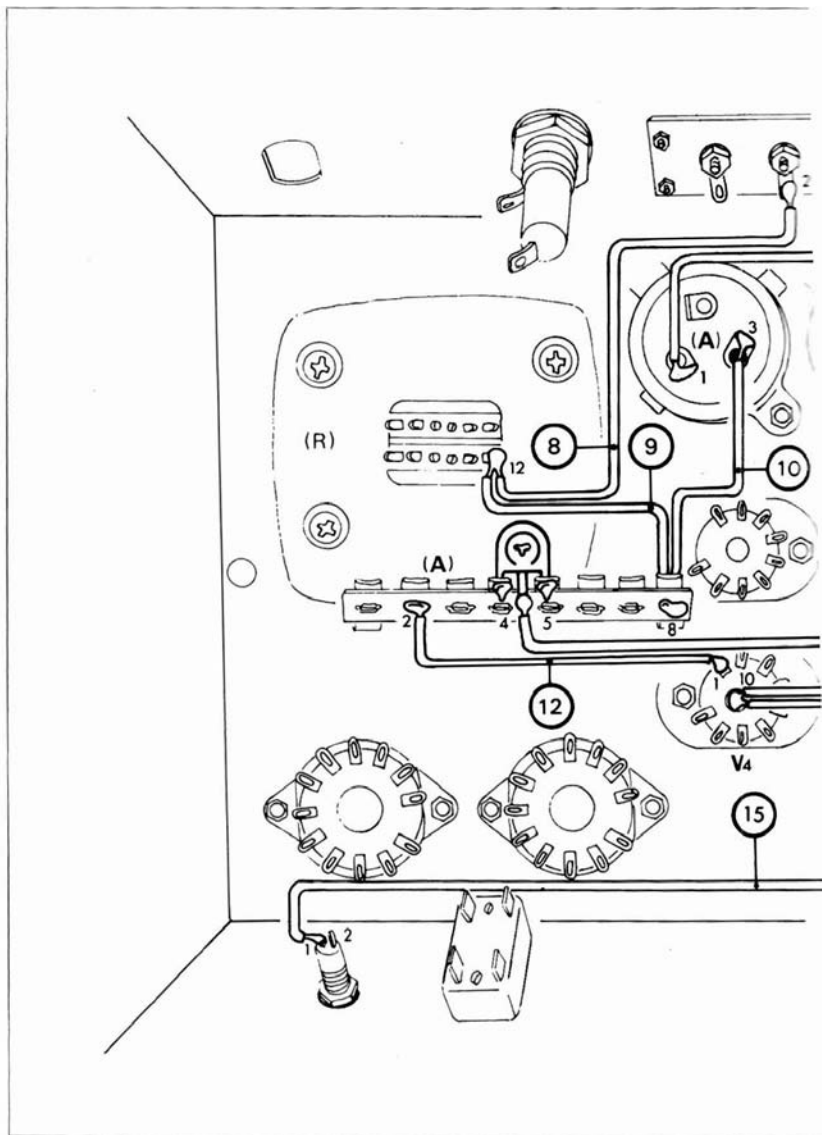




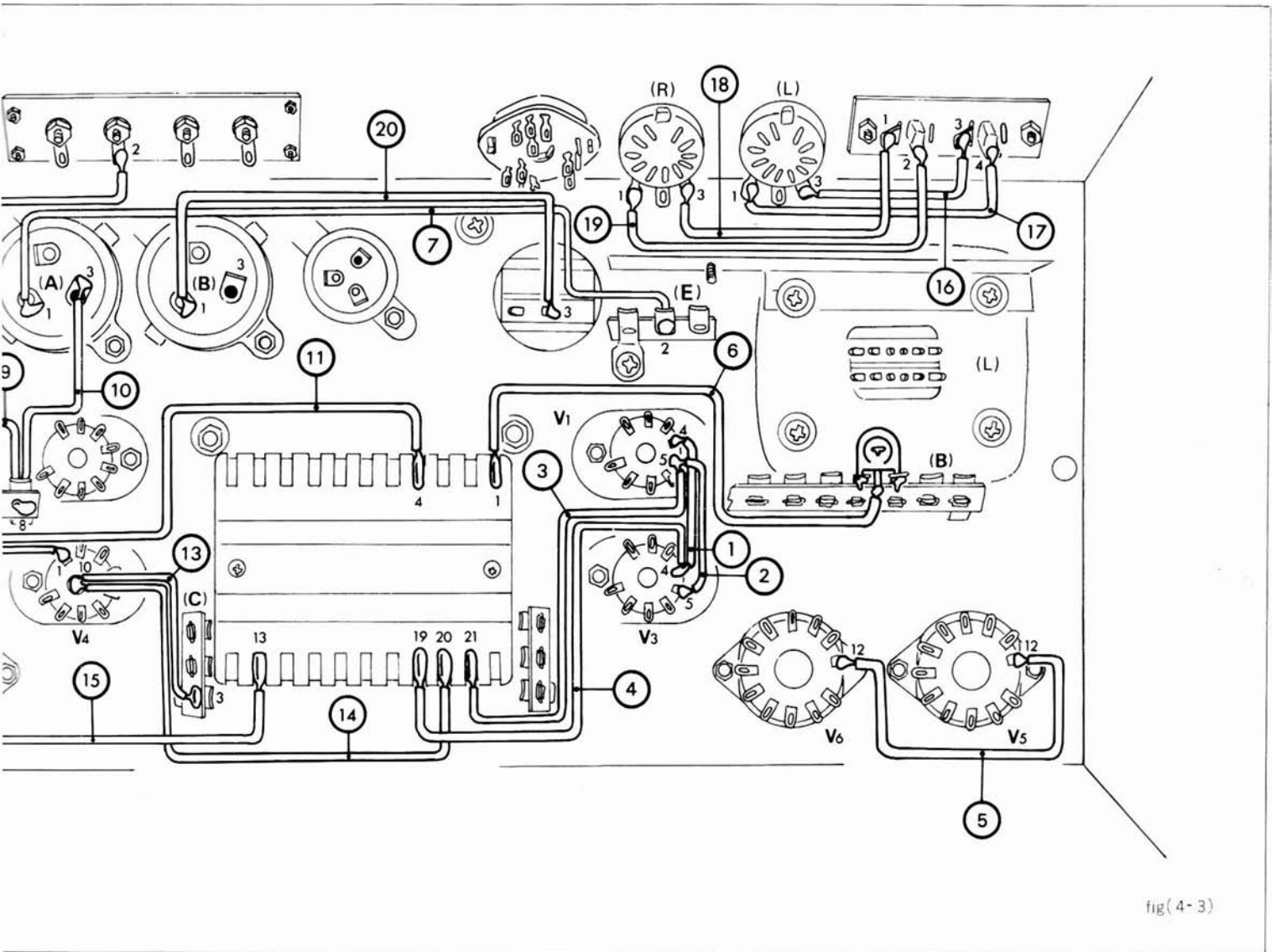
fig(4-2)

## 実体配線図(3)

- ① 白色の単線 5 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>1</sub> のピン 4 から、9 PIN チューブソケット V<sub>3</sub> のピン 4 に配線し、ハンダ付けします。
- ② 白色の単線 5.5 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>1</sub> のピン 5 から、9 PIN チューブソケット V<sub>3</sub> のピン 5 に配線し、ハンダ付けします。
- ③ 白色の単線 19 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>1</sub> のピン 5 から、パワートランスの端子 21 に配線し、ハンダ付けします。
- ④ 白色の単線 21 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>3</sub> のピン 4 から、パワートランスの端子 19 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ 白色の単線 11.5 cm を 12 PIN チューブソケット V<sub>5</sub> のピン 12 から、12 PIN チューブソケット V<sub>6</sub> のピン 12 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑥ 青色の単線 21 cm を 2 L6 P ラグ板 B に付いている半固定抵抗の真中の端子から、パワートランスの端子 1 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑦ 赤色の単線 25.5 cm を 1 L2 P ラグ板 E の端子 2 から、ブロックコンデンサ A の端子 1 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑧ 黒色の単線 15 cm を RIGHT 側アウトプットトランスの端子 12 から、出力端子板の端子 2 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑨ 黒色の単線 9 cm を RIGHT 側アウトプットトランスの端子 12 にハンダ付けし、一方を 2 L6 P ラグ板 A の端子 8 の下穴に通して、ハンダ付けしないで折曲げておきます。
- ⑩ 黒色の単線 12 cm をブロックコンデンサ A の端子 3 から、2 L6 P ラグ板 A の端子 8 の下穴に配線し、折曲げておいた 3 本の黒線と一緒にハンダ付けします。
- ⑪ 青色の単線 26 cm を 2 L6 P ラグ板 A に付いている半固定抵抗の真中の端子から、パワートランスの端子 4 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑫ 黄色の単線 9 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>4</sub> のピン 1 から、2 L6 P ラグ板 A の端子 2 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑬ 黒色の単線 6.5 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>4</sub> のピン 10 から、1 L2 P ラグ板 C の端子 3 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑭ 黒色の単線 20 cm を 9 PIN チューブソケット V<sub>4</sub> のピン 10 から、パワートランスの端子 20 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑮ 白色の単線 23 cm をネオンパイロットの端子 1 から、パワートランスの端子 13 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑯ LEFT 側ボリュームの端子 3 から出ている黒色の単線を、入力端子板の端子 3 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑰ LEFT 側ボリュームの端子 1 から出ている赤色の単線を、入力端子板の端子 4 に配線し、ハンダ付けします。



- ⑱ RIGHT 側ボリュームの端子 3 から出ている黒色の単線を、入力端子板の端子 1 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑲ RIGHT 側ボリュームの端子 1 から出ている赤色の単線を、入力端子板の端子 2 に配線し、ハンダ付けします。
- ⑳ 赤色の単線 15.5 cm をチョークコイルの端子 3 から、ブロックコンデンサ B の端子 1 に配線し、ハンダ付けします。

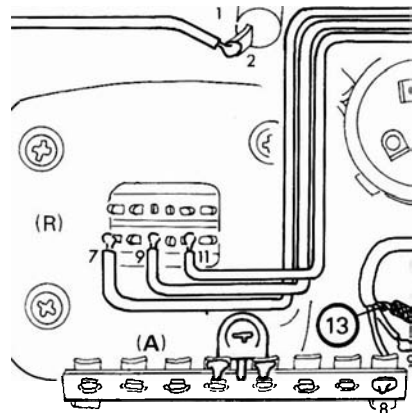


fig(4-3)

単線  
 単線  
 フロ  
 十

## 実体配線図(4)

- ① 黄色の単線10cmを9PINチューブソケットV<sub>3</sub>のピン1から、2L6プラグ板Bの端子7に配線し、ハンダ付けします
- ② 黄色の単線16.5cmを12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン7から、LEFT側アウトプットトランスの端子1に配線しハンダ付けします。  
 橙色の単線15cmを12PINチューブソケットV<sub>5</sub>のピン7から、LEFT側アウトプットトランスの端子6に配線し、ハンダ付けします。
- ④ 茶色の単線28cmをインピーダンス切換スイッチの端子4から、RIGHT側アウトプットトランスの端子7に配線しハンダ付けします。  
 ) 青色の単線28cmをインピーダンス切換スイッチの端子5から、RIGHT側アウトプットトランスの端子9に配線しハンダ付けします。
- ⑥ 紫色の単線28cmをインピーダンス切換スイッチの端子6から、RIGHT側アウトプットトランスの端子11に配線しハンダ付けします。
- ⑦ 茶色の単線23cmをインピーダンス切換スイッチの端子3から、LEFT側アウトプットトランスの端子7に配線しハンダ付けします。
- ⑧ 青色の単線24cmをインピーダンス切換スイッチの端子2から、LEFT側アウトプットトランスの端子9に配線しハンダ付けします。
- ⑨ 紫色の単線24cmをインピーダンス切換スイッチの端子1から、LEFT側アウトプットトランスの端子11に配線しハンダ付けします。
- ⑩ LEFT側ボリュームの端子3から出ている2芯シールド線の遊ばせておいた白色の芯線と端子2から出ている1/4W型抵抗33KΩ(橙橙橙)を1L2プラグ板Fの端子3に配線しハンダ付けします。
- ⑪ RIGHT側ボリュームの端子3から出ている2芯シールド線の遊ばせておいた白色の芯線と端子2から出ている1/4W型抵抗33KΩ(橙橙橙)を1L2プラグ板Fの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- ⑫ LEFT側ボリュームから出ている2芯シールド線の他方の端を9PINチューブソケットV<sub>1</sub>へ配線し、橙色の芯線をピン10に、白色の芯線をピン9に、外被線は1.5cmのグラスチューブを通してピン8にハンダ付けします。
- ⑬ RIGHT側ボリュームから出ている2芯シールド線の他方の端を9PINチューブソケットV<sub>2</sub>へ配線し、橙色の芯線を2L6プラグ板Aの端子8に、白色の芯線をピン9に、外被線は1.5cmのグラスチューブを通してピン8にハンダ付けします。
- ⑭ 白色の単線18cmを一方のむきしろを2cmとして、パワースイッチの端子5から端子2へ差込んで両端子にハンダ付けし、他方の端をパワートランスの端子14に配線し、ハンダ付けします。

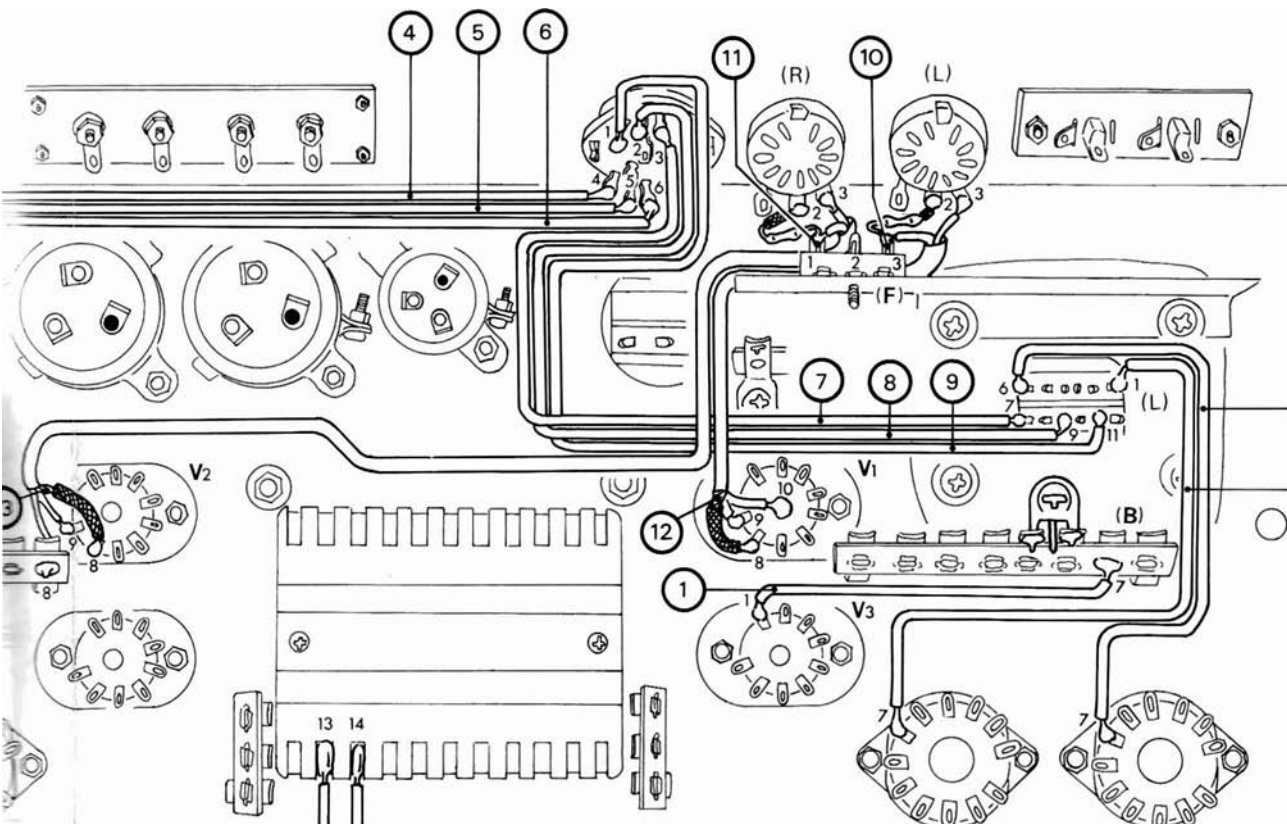


- ⑮ 白色の単線44cmをヒューズホルダの端子2から、パワートランスの端子13に配線し、ハンダ付けします。
- ⑯ ACコードを用意し、プラグの付いていない方の先端から26cmの所をコードストッパーで止め、シャーシに取付けます。  
 fig.(4-4-1)

ACコードをストッパーのところまで2本に裂き、一方をストッパーから7cmのところまで切り、ヒューズホルダの端子1に配線し、ハンダ付けします。

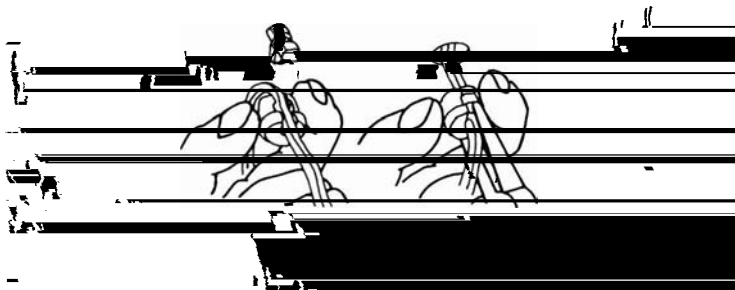
他方の端は、むきしろを1.5cmとし、パワースイッチの端子1から端子4へ差込んで両端子にハンダ付けします。





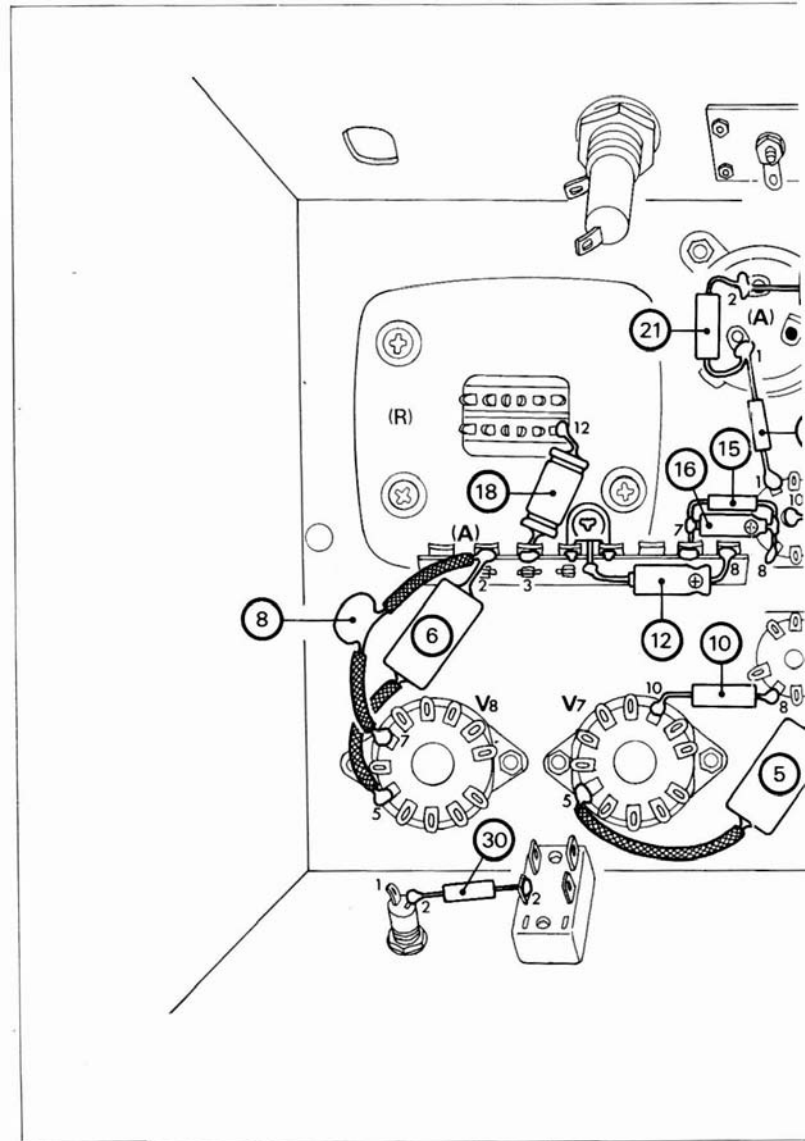
線材の配線は、これで終わりました。実体配線図(5)に移る前にP25のfig(4-7)を参照して“配線済線材のバインド”を行なってください。CR部材を取付けた後ではバインドがし難くなります。

コードストッパー取付図

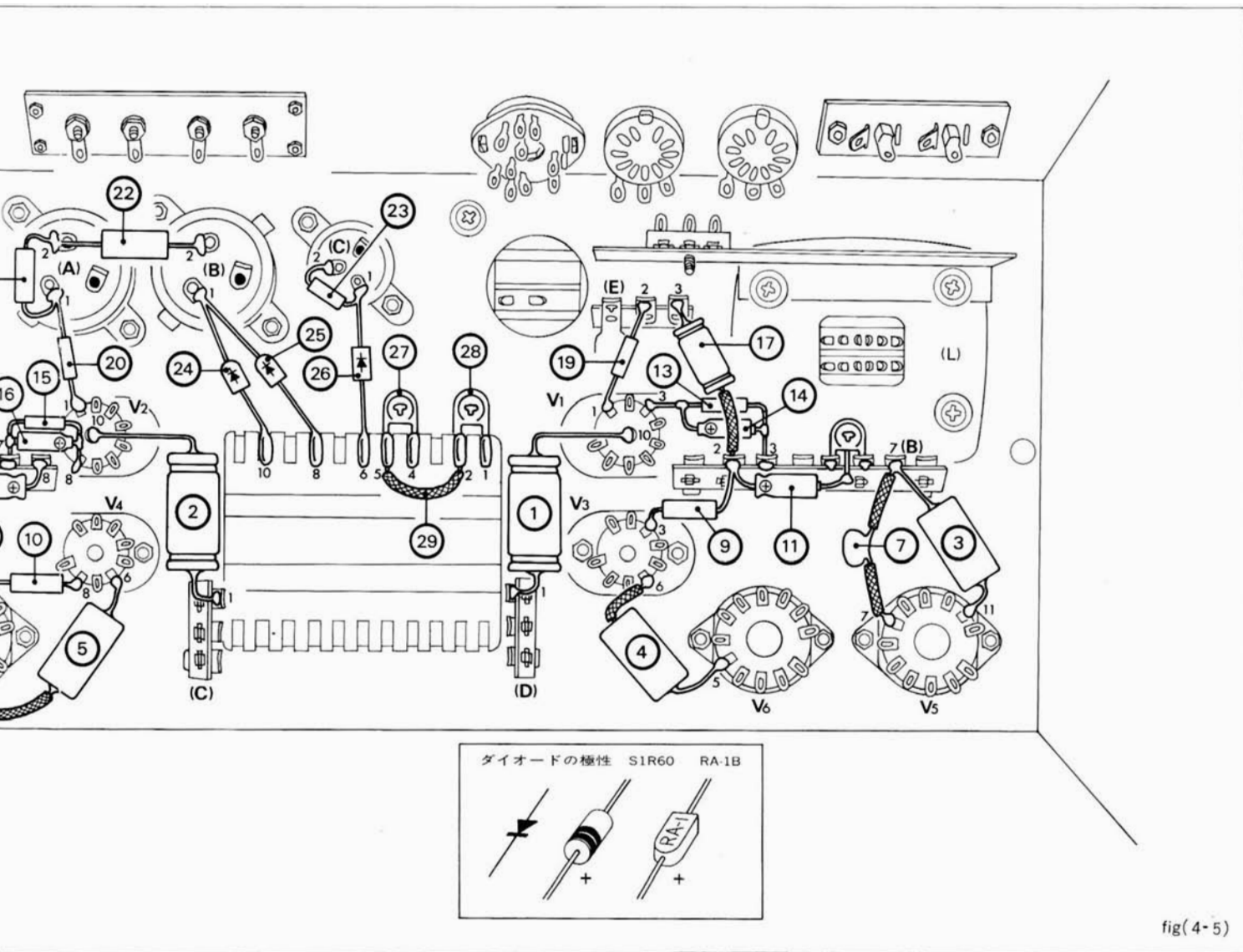


ここで配線する部材は、線材を除いてすべてパーツ袋Cに入っています。

- ④ MPコンデンサ(0.47 $\mu$ F 350WV)を9 PINチューブソケットV<sub>1</sub>のピン10から、1 L2 Pラグ板Dの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ MPコンデンサ(0.47 $\mu$ F 350WV)を9 PINチューブソケットV<sub>2</sub>のピン10から、1 L2 Pラグ板Cの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- ⑥ オイルチューブラコンデンサ(0.047 $\mu$ F 630WV)を、12 PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン11から、2 L6 Pラグ板Bの端子7に配線し、ハンダ付けします。
- ⑦ オイルチューブラコンデンサ(0.047 $\mu$ F 630WV)の片方のリード線に2 cmのグラスチューブを通して9 PINチューブソケットV<sub>3</sub>のピン6にハンダ付けし、他方を12PINチューブソケットV<sub>9</sub>のピン5に配線し、ハンダ付けします。
- ⑧ オイルチューブラコンデンサ(0.047 $\mu$ F 630WV)の片方のリード線に3 cmのグラスチューブを通して12PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン5にハンダ付けし、他方を9 PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン6に配線し、ハンダ付けします。
- ⑨ オイルチューブラコンデンサ(0.047 $\mu$ F 630WV)の片方のリード線に3 cmのグラスチューブを通して12PINチューブソケットV<sub>8</sub>のピン5にハンダ付けし、他方を2 L6 Pラグ板Aの端子2に配線し、ハンダ付けします。
- ⑩ セラミックコンデンサ(5pF)の両端に、それぞれ2 cmのグラスチューブを通し、12PINチューブソケットV<sub>5</sub>のピン7から、2 L6 Pラグ板Bの端子7に配線し、ハンダ付けします。
- ⑪ セラミックコンデンサ(5pF)の両端に、それぞれ2 cmのグラスチューブを通し、12PINチューブソケットV<sub>8</sub>のピン7から、2 L6 Pラグ板Aの端子2に配線し、ハンダ付けします。
- ⑫ 1 W型抵抗17 K $\Omega$ (茶紫橙)を9 PINチューブソケットV<sub>1</sub>のピン8から、12 PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。
- ⑬ 1 W型抵抗17 K $\Omega$ (茶紫橙)を9 PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン8から、12 PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。
- ⑭ 電解チューブラコンデンサ(10 $\mu$ F 100V)を極性に注意して、2 L6 Pラグ板Bの端子2に $\oplus$ 極側リード線を配線し、ラグ板に付いている半固定抵抗の中央の端子に $\ominus$ 極側リード線を配線し、ハンダ付けします。  
電解チューブラコンデンサ(10 $\mu$ F 100V)を極性に注意して、2 L6 Pラグ板Aの端子8に $\oplus$ 極側リード線を配線し、ラグ板に付いている半固定抵抗の中央の端子に $\ominus$ 極側リード線を配線し、ハンダ付けします。
- ⑮  $\frac{1}{2}$  W型抵抗1 K $\Omega$ (茶黒赤)を2 L6 Pラグ板Bの端子3から、9 PINチューブソケットV<sub>1</sub>のピン3に配線し、ハンダ付けします。



- ⑯ 電解チューブラコンデンサ(100 $\mu$ F 6.3V)を極性に注意して、9 PINチューブソケットV<sub>1</sub>のピン3に $\oplus$ 極側リード線を配線し、2 L6 Pラグ板Bの端子3に $\ominus$ 極側リード線を配線しハンダ付けします。
- ⑰  $\frac{1}{2}$  W抵抗1 K $\Omega$ (茶黒赤)を2 L6 Pラグ板Aの端子7から、9 PINチューブソケットV<sub>2</sub>のピン8に配線し、ハンダ付けします。
- ⑱ 電解チューブラコンデンサ(100 $\mu$ F 6.3V)を極性に注意して、9 PINチューブソケットV<sub>2</sub>のピン8に $\oplus$ 極側リード線を配線し、2 L6 Pラグ板Aの端子7に $\ominus$ 極側リード線を配線しハンダ付けします。
- ⑳ MPコンデンサ(0.22 $\mu$ F 250V)の片方のリード線に、1.5 cmのグラスチューブを通して2 L6 Pラグ板Bの端子2にハンダ付けし、他方を1 L2 Pラグ板Eの端子3に配線し、ハンダ付けします。
- ㉑ MPコンデンサ(0.22 $\mu$ F 250V)を2 L6 Pラグ板Aの端子3から、RIGHT側アウトプットトランスの端子12に配線



fig(4-5)

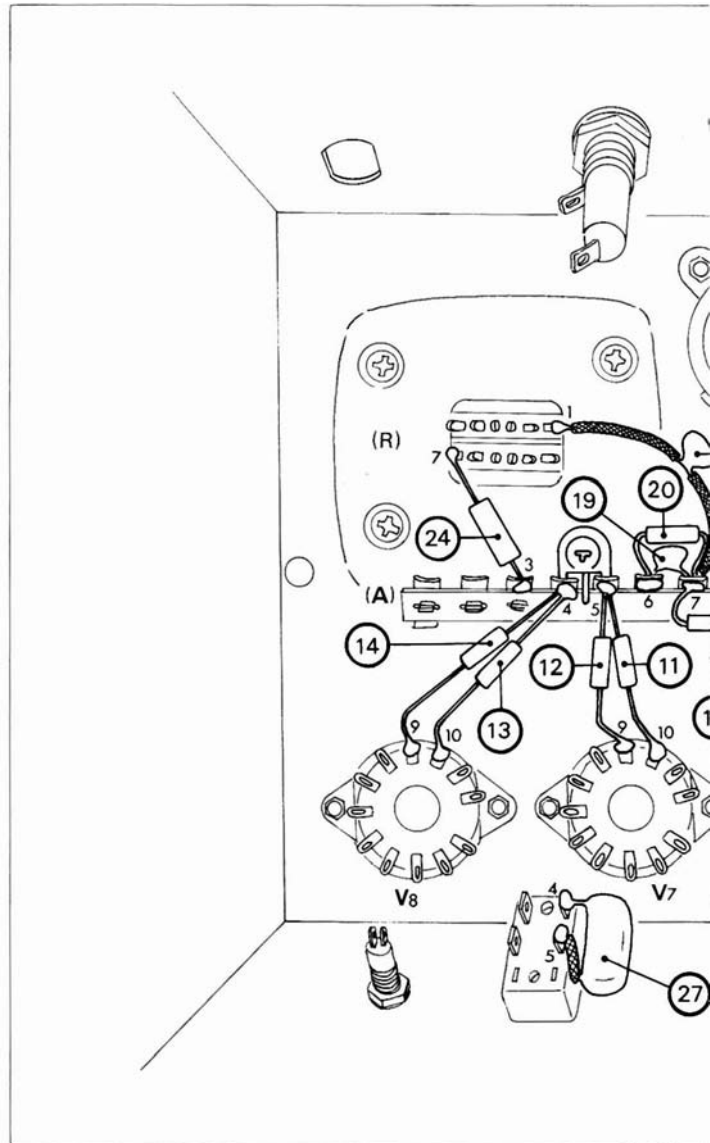
し、ハンダ付けします。

- 19 ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を9 PINチューブソケット V<sub>1</sub>のピン1から、1L2Pラグ板Eの端子2に配線し、ハンダ付けします。
- 20 ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を9 PINチューブソケット V<sub>2</sub>のピン1から、ブロックコンデンサAの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- 21 1W型抵抗47KΩ (黄紫橙)をブロックコンデンサAの端子1から、端子2に配線し、ハンダ付けします。
- 22 2W型抵抗2200Ω (赤赤赤)をブロックコンデンサAの端子2から、ブロックコンデンサBの端子2に配線し、ハンダ付けします。
- 23 ½W型抵抗2700Ω (赤紫赤)をブロックコンデンサCの端子1から、端子2に配線し、ハンダ付けします。
- 24 ダイオード(RA-1B)を極性に注意し(記号の向きを確認する)、パワートランスの端子10から、ブロックコンデンサBの端子1に配線し、ハンダ付けします。

- 25 ダイオード(RA-1B)を極性に注意し(記号の向きを確認する)、パワートランスの端子8から、ブロックコンデンサBの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- 26 ダイオード(S1R60)を極性に注意し(記号の向きを確認する)、パワートランスの端子6から、ブロックコンデンサCの端子1に配線し、ハンダ付けします。
- 27 2端子半固定抵抗10KΩを、表示のある面を上にし、2本の端子をパワートランスの端子4,5にハンダ付けします。
- 28 2端子半固定抵抗10KΩを、表示のある面を上にし、2本の端子をパワートランスの端子1,2にハンダ付けします。
- 29 スズ引線4cmに3cmのガラスチューブを通してパワートランスの端子2から端子5に配線し、ハンダ付けします。
- 30 ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)をパワースイッチの端子2から、ネオンパイロットの端子2に配線し、ハンダ付けします。

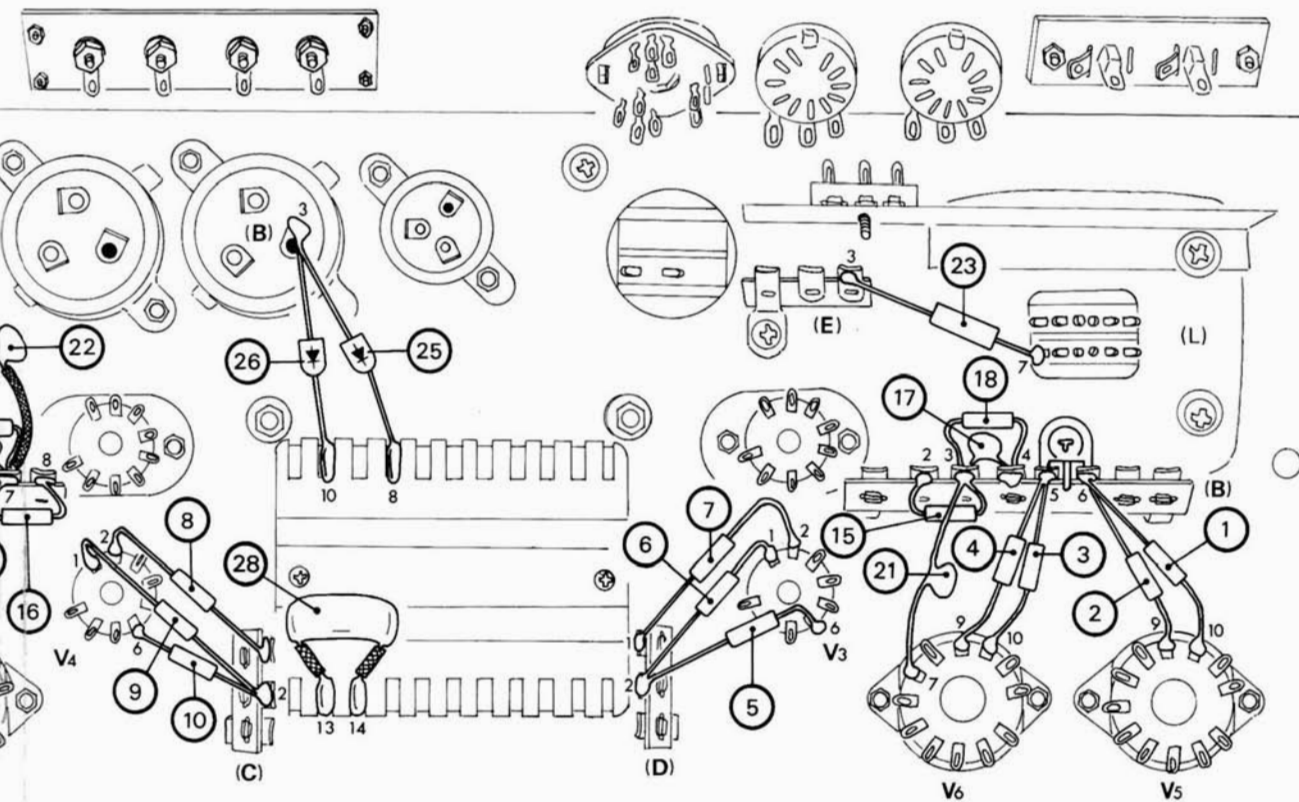
## 実体配線図(6)

- ④ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を2L6Pラグ板Bの端子6から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を2L6Pラグ板Bの端子6から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン9に配線し、ハンダ付けします。
- ⑥ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を2L6Pラグ板Bの端子5から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。
- ④ ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を2L6Pラグ板Bの端子5から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン9に配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を1L2Pラグ板Dの端子2から、9PINチューブソケットV<sub>3</sub>のピン6に配線し、ハンダ付けします。
- ⑤ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を1L2Pラグ板Dの端子2から、9PINチューブソケットV<sub>3</sub>のピン1に配線し、ハンダ付けします。
- ⑦ ½W型抵抗 1MΩ (茶黒緑)を1L2Pラグ板Dの端子1から、9PINチューブソケットV<sub>3</sub>のピン2に配線し、ハンダ付けします。
- ⑧ ½W型抵抗 1MΩ (茶黒緑)を1L2Pラグ板Cの端子1から、9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン2に配線し、ハンダ付けします。
- ⑥ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を1L2Pラグ板Cの端子2から、9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン1に配線し、ハンダ付けします。
- ⑩ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を1L2Pラグ板Cの端子2から、9PINチューブソケットV<sub>4</sub>のピン6に配線し、ハンダ付けします。
- ⑩ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を2L6Pラグ板Aの端子5から、12PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。
- ⑫ ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を2L6Pラグ板Aの端子5から、12PINチューブソケットV<sub>7</sub>のピン9に配線し、ハンダ付けします。
- ⑬ ½W型抵抗33KΩ (橙橙橙)を2L6Pラグ板Aの端子4から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン10に配線し、ハンダ付けします。  
 ½W型抵抗 100KΩ (茶黒黄)を2L6Pラグ板Aの端子4から、12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン9に配線し、ハンダ付けします。  
 ½W型抵抗 100Ω (茶黒茶)を2L6Pラグ板Bの端子3から端子2に配線し、ハンダ付けします。
- ½W型抵抗 100Ω (茶黒茶)を2L6Pラグ板Aの端子7から、端子8に配線し、ハンダ付けします。
- ⑮ セラミックコンデンサ(560pF)を2L6Pラグ板Bの端子3から端子4に配線し、ハンダ付けします。



- ⑬ ½W型抵抗3300Ω (橙橙赤)を2L6Pラグ板Bの端子3から、端子4に配線し、ハンダ付けします。
- ⑰ セラミックコンデンサ(560pF)を2L6Pラグ板Aの端子6から端子7に配線し、ハンダ付けします。
- ⑳ ½W型抵抗3300Ω (橙橙赤)を2L6Pラグ板Aの端子6から、端子7に配線し、ハンダ付けします。
- ㉑ セラミックコンデンサ (20pF) を12PINチューブソケットV<sub>6</sub>のピン7から、2L6Pラグ板Bの端子3に配線し、ハンダ付けします。
- ㉒ セラミックコンデンサ (20pF) の両端にそれぞれ3cmのグラスチューブを通し、RIGHT側アウトブットトランスの端子1から、2L6Pラグ板Aの端子7に配線し、ハンダ付けします。
- ㉓ 1W型抵抗22Ω (赤赤黒)を1L2Pラグ板Eの端子3からLEFT側アウトブットトランスの端子7に配線し、ハンダ付けします。





fig(4-6)

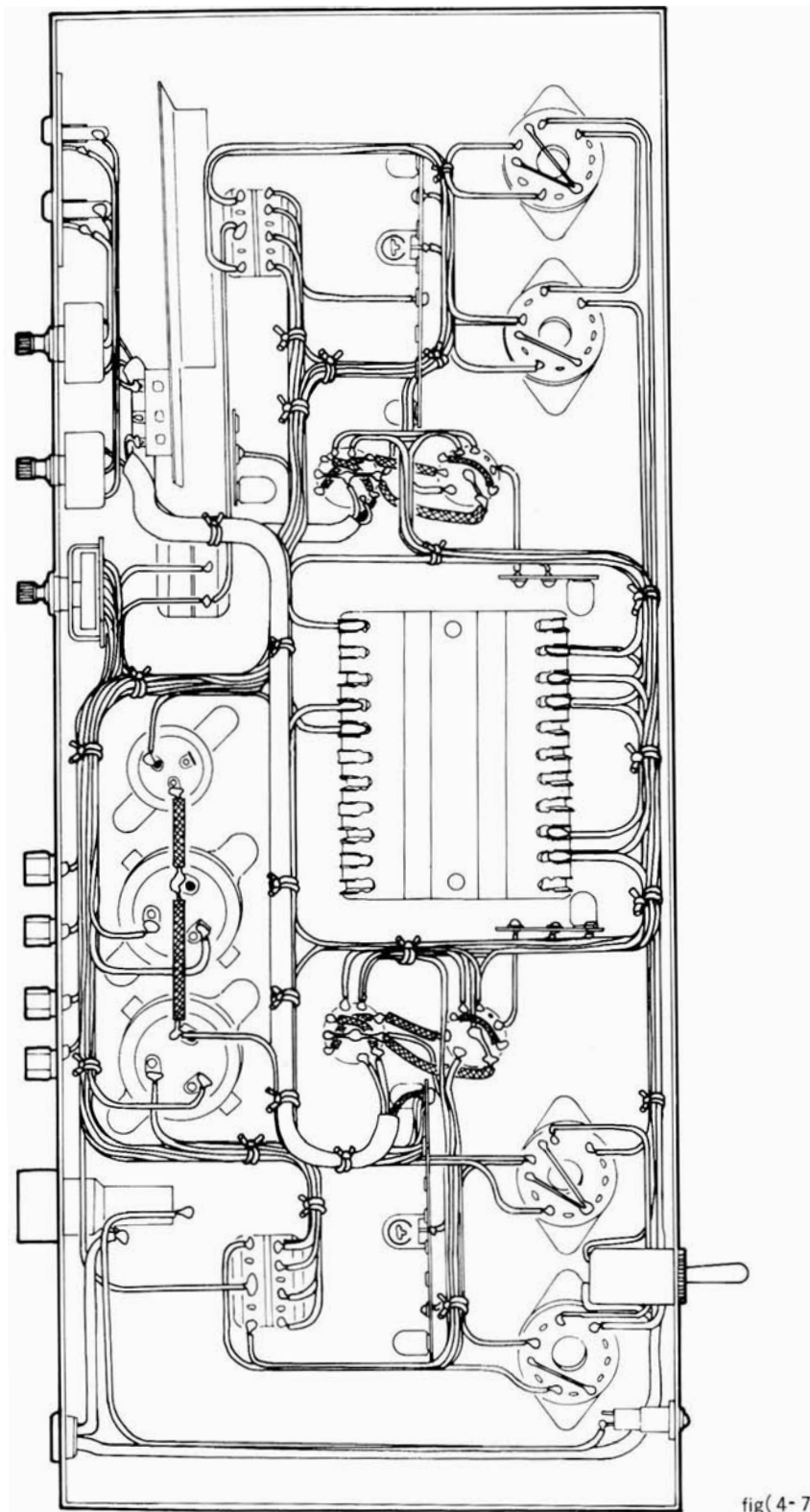
- ②⑤ ダイオード (RA-1 B) を極性に注意し(記号の向きを確認する), ブロックコンデンサ B の端子 3 から, パワートランスの端子 10 に配線し, ハング付けします。
- ②⑥ ポリエステルコンデンサ (0.022 $\mu$  F) の片方のリード線に 1 cm のガラスチューブを通してパワースイッチの端子 5 にハンダ付けし, 他方をパワースイッチの端子 4 に配線し, ハング付けします。
- ②⑦ ポリエステルコンデンサ (0.022 $\mu$  F) の両端にそれぞれ 1 cm のガラスチューブを通してパワートランスの端子 13 から端子 14 に配線し, ハング付けします。

以上で本機の配線は終了しました。配線に間違いがないかどうか, またハンダ付けが確実に行われているかどうかを, もう一度確認してください。



## 配線済線材のバインド

線材の配線が完了すれば、誤配線がないかもう一度確認して下さい。誤りがなければ、線材を図に示す個所でバインドします。ビニール線を2回まいて結んで下さい。



## §5 動作テストとトラブルシューティング

本機の調整には特に難しいところはありませんが、バイアス調整の方法を間違えますと、出力管に過大な電流が流れて破損することがありますので、順序通りに調整してください。

調整にはテスタ、または、真空管電圧計(バルボル)が必要です。なお、表示の基準電圧値は真空管電圧計による値ですから、テスターで測った場合は若干低めになります。誤差は電源電圧の違いなどが影響しますから、±10%程度は許容されます。

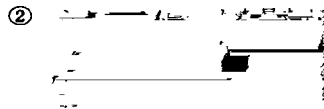
### 調整の前に

1. パワースイッチは下に倒してOFFにしておき、ヒューズホルダに5Aのヒューズを入れ、各真空管を所定の位置に差込む。
2. ノブ3個をノブの指標とシャーシの表示が合うようにインピーダンス切換スイッチとレベルセットボリュームに差込む。
3. 両チャンネルのバイアス調整用半固定抵抗VR<sub>3</sub>、VR<sub>4</sub>を小型の⊖ドライバーで右一杯(時計方向)に回し切っておく。
4. 両チャンネルのDCバランス用半固定抵抗VR<sub>1</sub>、VR<sub>2</sub>をセンターの位置にセットしておく。

fig.(5-1)

注意；調整中に真空管の赤熱や部品の発煙などの異常が生じたときは、すぐにパワースイッチを切り、ACプラグをコンセントから抜いてください。この章で用いた①②③等の数字は、テストがOKだった場合の順序を示し、(A)(B)(C)等のアルファベットは、トラブルがあった場合の対策を示します。

- ① ACプラグをコンセントに差込む。



- ネオンパイロットが光る
- ネオンパイロットがつかない
- スイッチをOFFにしてもパイロットがついている — (A)
- ヒューズがとぶ

- ③ パワースイッチをONにする
- パワースイッチ、ヒューズホルダ、ACコード、ネオンパイロット等の誤配線を修正する

- 各真空管のヒーターが確実に点火する
- 各真空管のヒーターが点火しない
- 出力管が赤熱する

- ④ Lch. バイアス電圧の測定
- テスターのレンジを100V～150Vにし、⊕側をシャーシ(アース端子)に、⊖側をLch.DCバランス調整用半固定抵抗VR<sub>1</sub>の中心にあてる

白色の単線で配線してある9PINチューブソケット、および、12PINチューブソケットのヒーター回路をチェックし、間違いを修正する

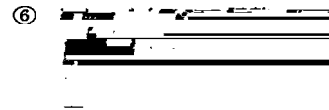
- ◎ 青色の単線で配線してあるバイアス回路をチェックし、間違いを修正する

- 50V～-60Vの範囲に納まる
- 電圧0V
- 電圧は出ているが-50Vに満たない

- ⑤ Rch. バイアス電圧の測定
- ④と同様にして、テスターの⊕側をシャーシに、⊖側をRch.DCバランス調整用半固定抵抗VR<sub>2</sub>の中心にあてる

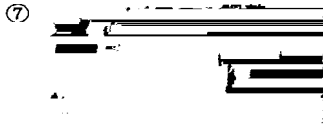
赤色の単線で配線してあるB電源回路をチェックし、間違いを修正する

- 50V～-60Vの範囲に納まる
- 電圧0V
- 電圧が出ているが-50Vに満たない



テスターのレンジを10V～15Vにし、⊕側をLch.アウトプットトランスの端子34にあて、⊖側を出力管V<sub>6</sub>およびV<sub>6</sub>のピン7(プレート)に交互にあて、Lch.バイアス調整用半固定抵抗VR<sub>3</sub>を徐々に左(反時計方向)に回し指示電圧が8V(7.8～8.2V)にカスタムに調整

- 指示電圧が8V程度になる
- 指示電圧が8V程度にならない



⑦と同様にして、テストの⊕側をRch.アウトプットトランスの端子3,4にあり、⊖側を出力管V<sub>7</sub>およびV<sub>8</sub>のピン7に交互にあり、Rch.バイアス調整用半固定抵抗VR<sub>4</sub>を徐々に左に回して、指示電圧が8V(7.8~8.2

- 指示電圧が8V程度になる
- 指示電圧が8V程度にならない

⑧ ⑥⑦の操作を2,3度繰り返して調整する。バイアス調整用半固定抵抗とDCバランス用半固定抵抗は互いに影響しあいますので注意深く調整してください

⑨ Lch.およびRch.レベルセットボリュームを左一杯(反時計方向)に回し切り、出力端子にスピーカーを接続する。

⑩ 入力端子に音声信号(チューナー、テープレコーダ等)を入れLch.レベルセットボリュームを徐々に右に回してゆく

入力端子および出力端子インピーダンス切換スイッチ等の入出力回路の配線をチェックし、間違いを修正する

- LEFT側スピーカーから信号が出る
- RIGHT側スピーカーから信号が出る
- 信号が出ない

⑪ Rch.レベルセットボリュームを徐々に右に回してゆく

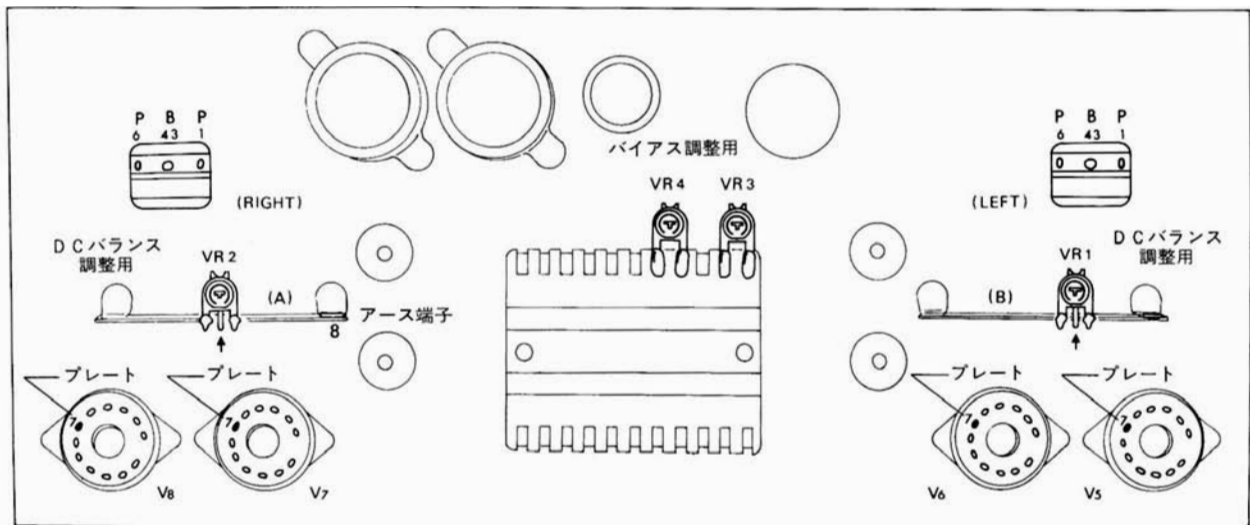
- RIGHT側スピーカーから信号が出る
- 信号が出ない



○音声信号が $4\Omega < 8\Omega < 16\Omega$ の順に大きくなる — OK

⑫ インピーダンス切換スイッチへの配線をチェックし、間違いを修正する。

以上で本機の動作テストは終了しました。

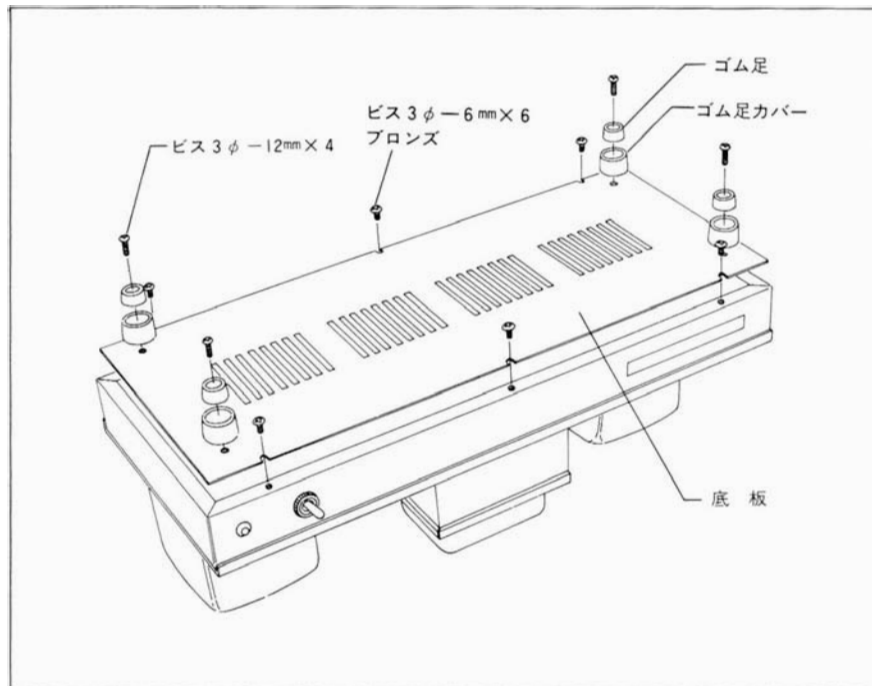


fig(5-1)

## § 6 外 装

動作テストで異常がなければ、最後の仕上げをします。

- ① ゴム足カバーにゴム足をはめ、ビス(3φ-12mm)4本で底板に取付けます。
- ② ゴム足の付いた底板をビス(3φ-6mmブロンズ)6本でシャーシに取付けます。
- ③ シリアルNo.用シールをアンプの裏面の左端に黄色の裏紙をはがして印刷のない所に張付けて下さい。



## § 7 各部の名称と用途

### 1. パワースイッチ

このスイッチを上を押上げるとONになり、数10秒後に動作状態になります。

### 2. ネオンパイロット

パワースイッチ(I)をONにすると、このパイロット・ランプが点灯して電源が入ったことを示します。

### 3. ACコード

このACコードの先についているプラグをAC 100Vのコンセントに差し込みます。

### 4. ヒューズ・ホルダー

このヒューズ・ホルダーの中には、5Aの容量のヒューズが入っています。ヒューズが切れたときには、よく原因を確かめてから取り替えてください。切断の原因は自然切断、電源回路の短絡、出力管の不良による切断などが考えられます。

### 5. 出力端子

この端子にスピーカーシステムを接続します。向かって左側のスピーカーシステムをL(左)出力端子に、右側のスピーカーシステムをR(右)出力端子に接続します。

出力端子には各チャンネルごとに、白、黒の2端子があります。スピーカーシステムの⊕端子を本機の出力端子の白側に、⊖端子を黒側に接続してください。

### 6. インピーダンス切換スイッチ

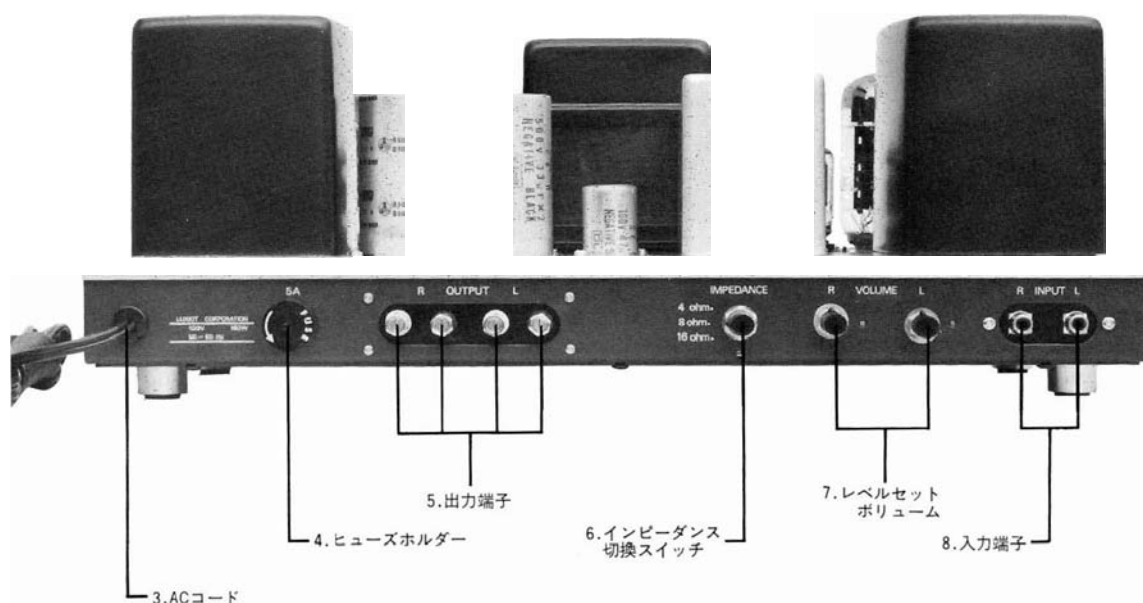
スピーカーシステムのインピーダンスに合わせて切換えることができます。たとえば、インピーダンスが8Ωのスピーカーシステムであれば、インピーダンス切換スイッチを8ohmの位置に指標を合わせます。

### 7. レベルセット・ボリューム

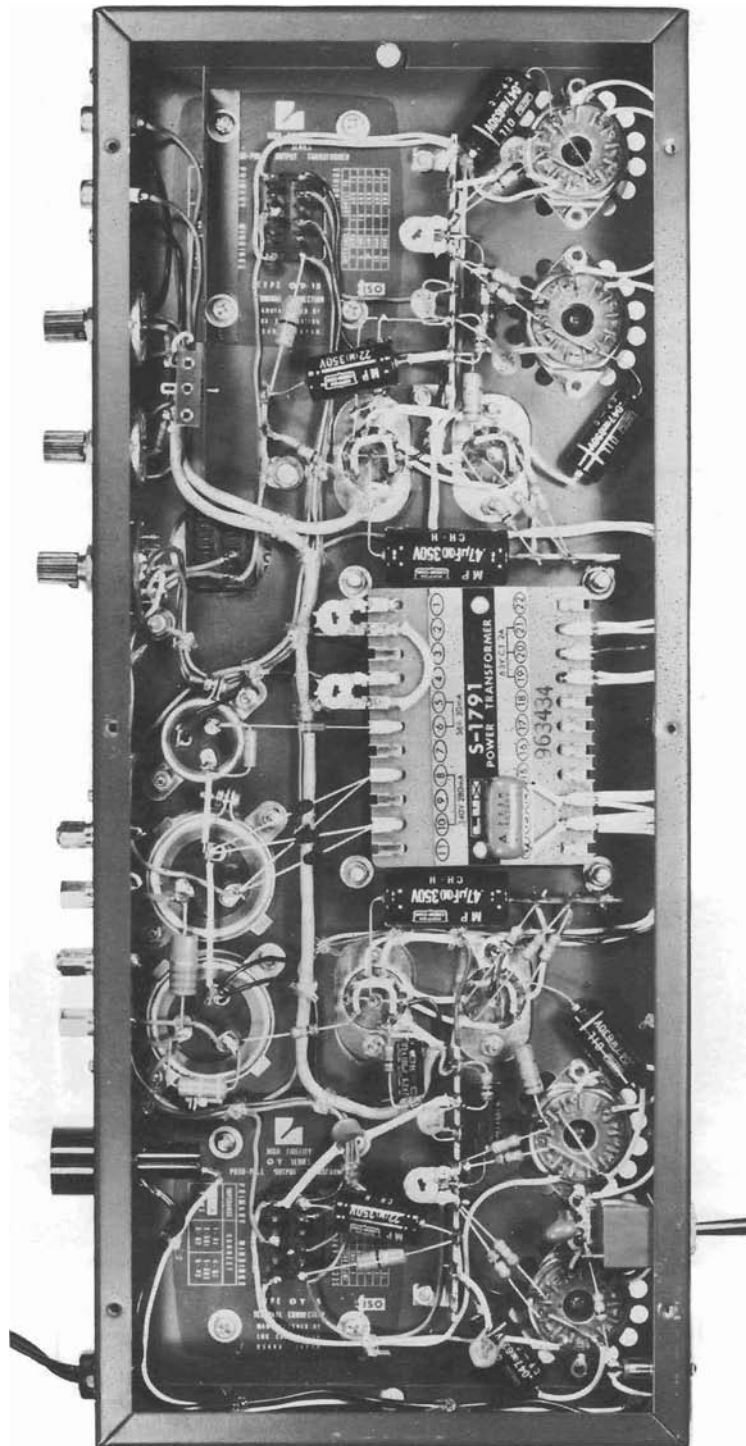
本機に接続するプリアンプの出力電圧に合わせて適当な位置にセットします。本機では、ボリュームを移動させたときに生じる周波数特性の変動を防ぐため、初段管の入力キャパシティを相殺する回路を採用していますのでボリュームを絞っても高域が落ちるようなことはありません。

### 8. 入力端子

この入力端子とコントロールアンプの出力端子との間をピンプラグ・コード(両端にピンプラグのついたシールド線)で接続します。このピンプラグ・コードの長さは、コントロールアンプの出力インピーダンスの如何により制限を受けます。出力インピーダンスが10KΩのときは5mぐらいまで、1KΩのときは50mぐらいまでが一応の目安となります。



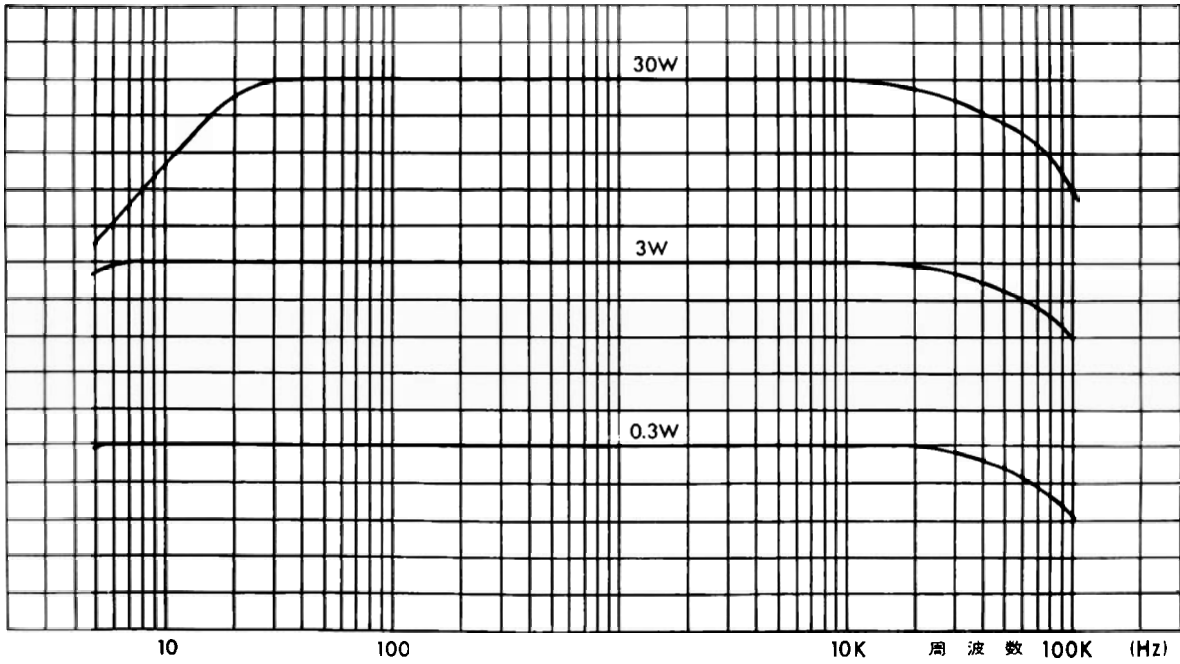
配線完了図



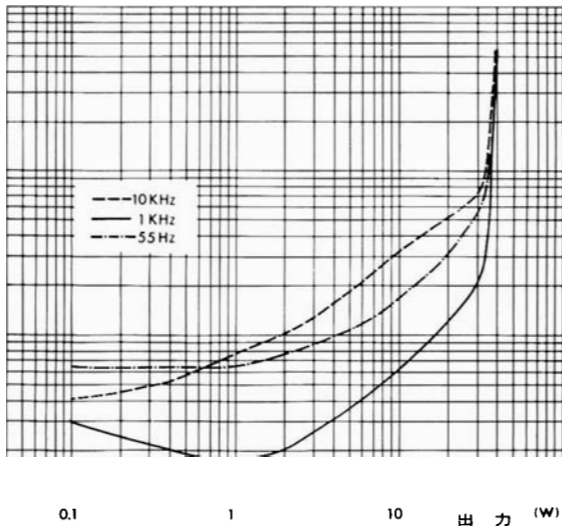


# 特性図

周波数特性

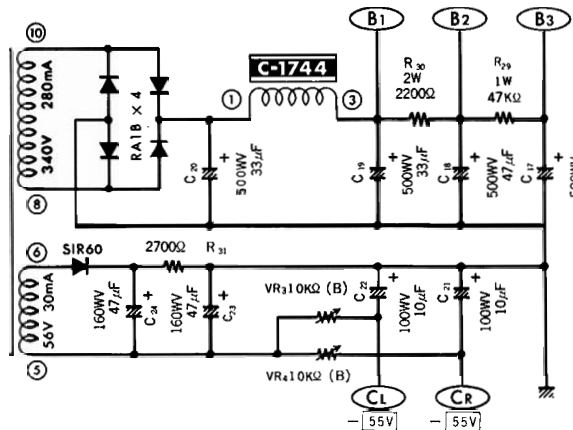
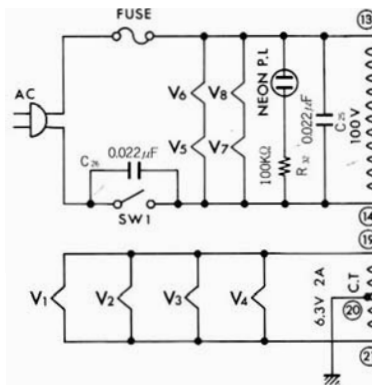
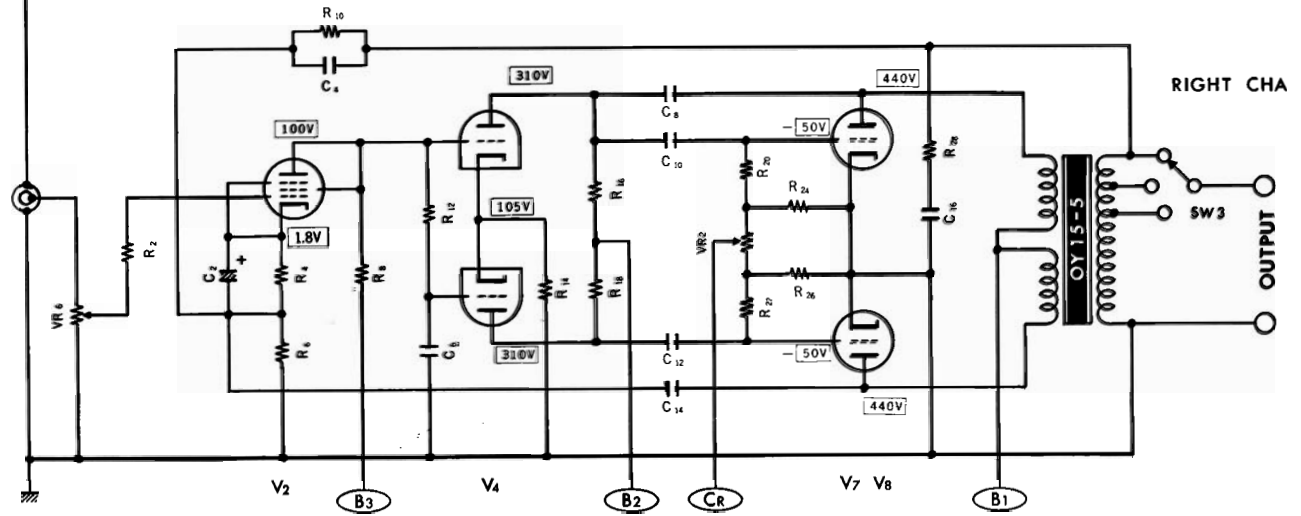
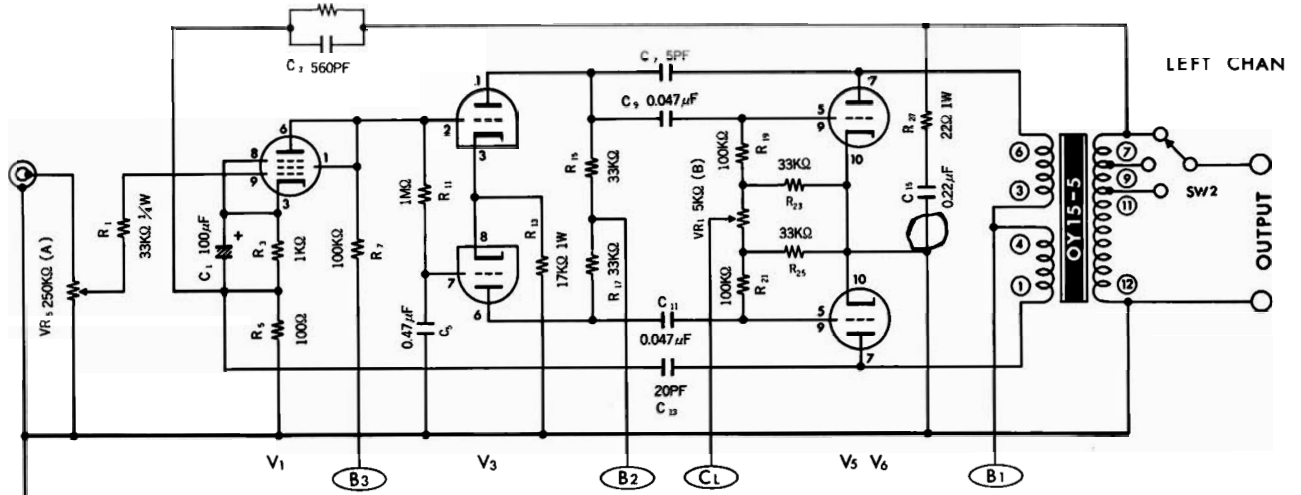


歪率特性



## 規格

使用真空管	50CA10 (4) 6AQ8 (2)
	6267 (2)
使用ダイオード	S1R60(1) RA-1B(4)
実効出力	30W/30W
全調波歪率	0.5%以下 (1KHz; 30W出力時)
	1% 以下 (55Hz, 10KHz; 30W出力時)
周波数特性	20Hz~20,000Hz. (-1dB以内)
入力感度	750mV
S/N比	90dB以上
残留雑音	0.7mV以下
負荷インピーダンス	4Ω, 8Ω, 16Ω (スイッチ切換)
消費電力	160W
外形寸法	410(幅)×205(奥行)×155(高)mm
重量	13.8Kg



- |   |           |                                 |            |
|---|-----------|---------------------------------|------------|
| V <sub>1</sub> V <sub>2</sub>                               | 6267      | VR <sub>1</sub> VR <sub>2</sub> | DC BALANCE |
| V <sub>3</sub> V <sub>4</sub>                               | 6A08      | VR <sub>3</sub> VR <sub>4</sub> | BIAS       |
| V <sub>5</sub> V <sub>6</sub> V <sub>7</sub> V <sub>8</sub> | 50CA10    | VR <sub>5</sub> VR <sub>6</sub> | LEVEL SET  |
| SW <sub>1</sub>   | POWER     |                                 |            |
| SW <sub>2</sub> SW <sub>3</sub>                             | IMPEDANCE |                                 |            |

# LUXKIT KMQ60



ラックスキット株式会社

# ボンネット取付説明書



このボンネットはKMQ60, A2500に取付けて、トランスおよび真空管などを保護するためのものです。ボンネットを取付ける時には、下記の要領で作業を行ってください。

右図をよく見ながら、ガイドピンをビス(3φ-25mm)でボンネット両端のL型金具に取付けます。この時、ガイドピンのエッジの切っ方からビスを通すようにします。ビスはあまり強く締付けないようにし、またボンネットのL型金具にも無理な力を加えないように注意してください。ガイドピンの取付けが済みましたら、トランスやシャーシにキズを付けないように注意しながらボンネットをかぶせます。

なお、ボンネットの上には絶対ものを置かないようにしてください。真空管アンプは通気性に十分考慮を払わなければならないのですが、ボンネットの上にもものを置くと通気が妨げられますので望ましくありません。

